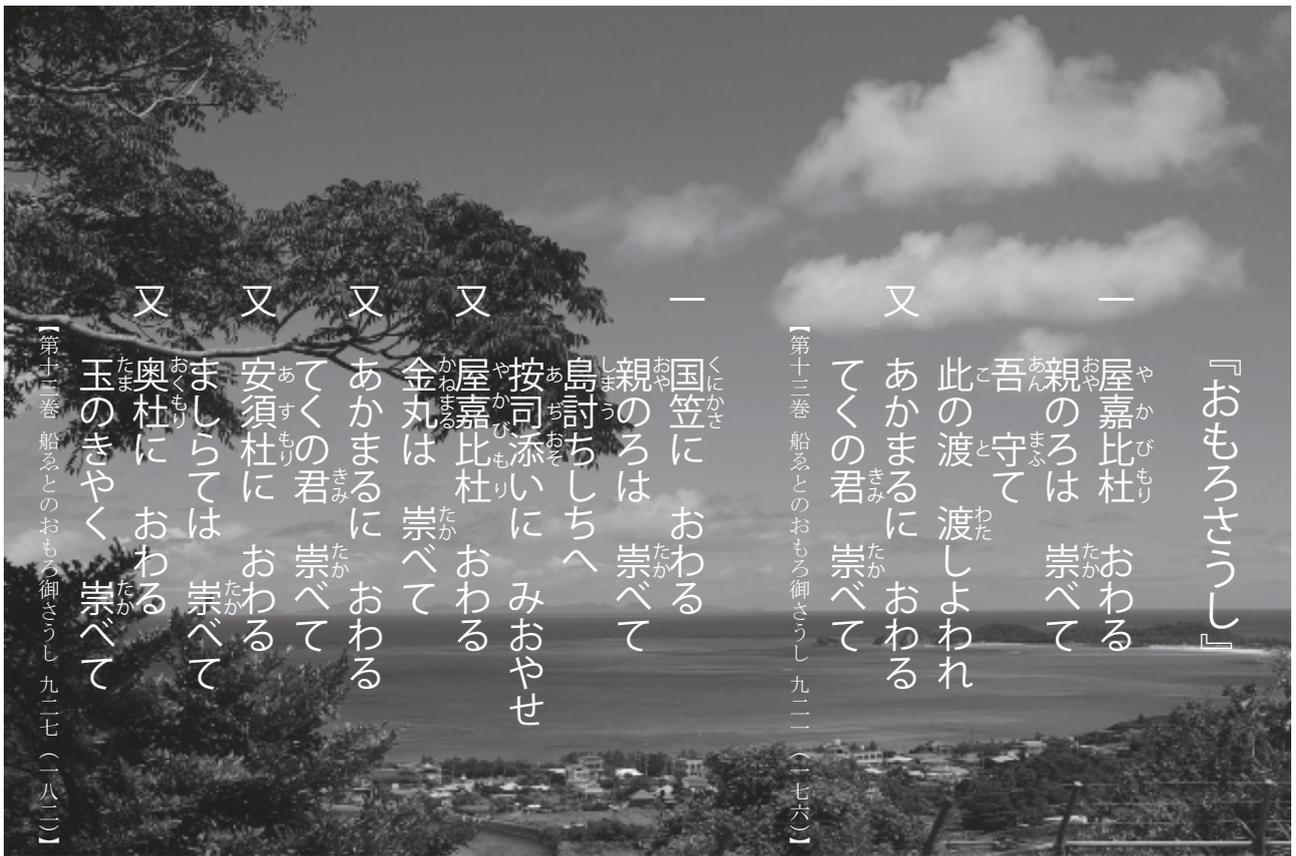


大宜味村史

言語編



『おもろさうし』

一 屋嘉比杜 おわる

親のろは 崇べて

吾守て

此の渡 渡しよわれ

又 あかまるに おわる

てくの君 崇べて

【第十三巻 船多のおもろ御さうし 九二二（二七六）】

一 国笠に おわる

親のろは 崇べて

島討ちしちへ

按司添いに みおやせ

又 屋嘉比杜 おわる

金丸は 崇べて

又 あかまるに おわる

てくの君 崇べて

又 安須杜に おわる

ましらは 崇べて

又 奥杜に おわる

玉のきやく 崇べて

【第十三巻 船多のおもろ御さうし 九二七（二八一）】



一 屋嘉比杜におわるのろは
 たんてきまうらーちん
 あちあちいひいおやせ
 又 親のろはにおわるのろは
 ましらは
 又 あかまるに おわるのろは
 きみたんで
 又 あかまるに おわるのろは
 らしてたんで
 又 あかまるに おわるのろは
 きみたんで

「屋嘉比杜おわる 金丸は崇べて」の、「金丸」とは屋嘉比杜に鎮座する神の名前とされている。屋嘉比杜とそこを司る親ノロが、「おもろさうし」に謡われる程、中央（首里）から注目されていることがうかがえる。（『おもろさうし 日本思想大系 18』外間守善・西郷信綱／岩波書店）

海上に視線を移すと、船の往来の目標になった赤丸（国頭村奥間の赤丸崎）から、辺戸の安須杜、奥の杜までを眺望する壮大なロマンを感じさせるおもろである。

上：根謝銘（ウイ）グスクから赤丸崎を眺む
 下：大城御嶽。現在は神役がいいため、田嘉里区で祭祀を行っている



『刻画石版』(沖縄県立博物館所蔵) 沖縄のロゼッタストーンとも呼ばれ、平らな石の表面に様々な絵や記号のようなものが刻まれている。読谷村・嘉手納町・北谷町・宜野湾市といった沖縄島中部のグスクや拝所などから発見され、現在は12点が存在している。石板をよく見ると船や建物、鳥などが刻まれているのが分かるが、いつ頃つくられ、どのような意味を持ち、何に使われたものかはわかっていない。

1	11	111	1111	11111	111111	1111111	11111111	111111111	1111111111		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
11	111	1111	11111	111111	1111111	11111111	111111111	1111111111	11111111111	111111111111	1111111111111
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	25	
111	1111	11111	111111	1111111	11111111	111111111	1111111111	11111111111	111111111111	1111111111111	11111111111111
30	40	50	60	70	80	90	100	1,000	2,000	3,000	
11111	111111	1111111	11111111	111111111	1111111111	11111111111	111111111111	1111111111111	11111111111111	111111111111111	
10,000	125貫	1,650貫	20貫	25貫	65貫						

松太郎氏に教えてもらった「スーチューマー」(1967年山川元康ノート)

■特殊な計算方法

スーチューマー(スーツーマー)とは、記号を用いて行われる計算方法。平良松太郎氏(謝名城・明治13年生)が35歳の頃から使用されていたという。当時、スーチューマーを知っていた者は少なく、ヤマク(大工、きこり)達が材木の金額を計算するために使われていたようである。

ほかにも、明治期には、藁算といって稲藁などを結んで数字を示す記号文字(結縄)があり、賦役、収入などの計算をするときに用いた。字事務所には計算に使われた藁算が一部屋に山のように積まれていたという。

明治十三年四月八日出版
 全十五年十月 改正再版
 全十二年十二月 出版
 全十五年十月 改正再版

沖繩對話

沖繩縣學務課編纂

第一章 名詞之部
 第一回

○晴天、曇空、日、日蝕、月、望月、
 弦月、新月、月蝕、光、星、彗星、
 ハレブンブチニウ、ミカブチ、ダロツシユク、ヒカリ、フシ、ハウチブシ、
 銀河、雨、大雨、驟雨、細雨、梅雨、
 テレガーブ、アミ、デーウ、ナガシ、アマクラー、ナガシ、
 五月雨、時雨、風、順風、逆風、回颯、
 ナガシ、シムカキル、カズ、シムレブ、ムカフカズ、カズマナ

頬、口、唇、齒、齧、齧、舌、噴嚏、
 フ、タチ、クナヒル、ハ、ハシ、シタ、ハナヒル、
 咳嗽、欠、頤、頤、髻、耳、頸、喉、
 キツタイ、アクビ、ウツゲ、ヒソ、ミ、クビ、ヌデー、
 肩、手、腕、臂、手甲、掌、指、爪、
 カタ、テ、ウデ、ヒザ、テナー、テメウラ、イビ、ツミ、
 胸、乳、脇、腹、臍、脊、腰、臀、足、
 レニ、チ、ワタ、フス、クレ、ガマク、ツビ、ヒシヤ、
 股、膝、脛、足甲、踵、嘴、翼、
 ム、ツレス、スイニ、ヒンヤナー、アド、クナ、ハニゲ

第三回

○先生、伺ヒマス ◎何デアリマスカ ○小
 學讀本ノ字引ハ無イモノデ、ゴザリマスカ ◎
 ガクトフレス、ラヒチエ、チレガ、アヤヒマシ
 澤山、アリマス ○コナニモ、参リテフリマシ
 ウホク、アヤヒレ、クマニレ、アイガシヤヒ
 ヤウカ ◎スコシハ、來テ、フリマシヤウ ○ソレ
 ヲ求メテハ、如何デゴザリマシヤウ ◎其レモ
 トミタワ、チヤ、ヒ、ガ、ヤ、ウ、レ、

第四回

○稻、麥、粟、稷、蜀黍、玉蜀黍、
 甘蔗、蕎麥、大豆、小豆、蠶豆、豌豆、
 ヲ、ス、ウ、ア、イ、シ、ミ、ズ、キ、ム、



『沖繩對話』 明治 12 (1879) 年の「廃藩置県」の翌 13 年、
 沖繩県学務課が編纂した標準語を話せる教員を養成すること
 を目的としたテキストである。上下 2 巻からなり、まず、
 標準語が記載され、それに対応した琉球語の訳がついてい
 たが、日常会話とはかけ離れた首里士族の敬語が用いられ
 不自然な文体に終始していた。それでも、同化政策を強硬
 に推し進める日本政府と、沖繩県民の同化志向が相俟って、
 明治末頃には「標準語励行運動」は全県的な広がりを見せ、
 やがて、「方言札」という集団取締に発展していった。

『方言札』(民俗資料博物館蔵) 標準語を普及
 させる手段として主に初等教育において、方
 言を使った児童に首からかけさせた札のこと。
 A 4 大から手の平サイズまであったという。

体の各部を表す言葉

※沖縄言語研究センター調査（1980年）を元に、9字（喜如嘉・塩屋・謝名城・大兼久・大宜味・根路銘・屋古・宮城・津波）全般で使われているものには全、特色のあるものはそれぞれ喜如嘉喜、塩屋塩、謝名城謝、大宜味宜、大兼久兼、根路銘根、屋古屋、宮城宮、津波津で表した。

目：全ミー
 眉毛：喜ミーマユ
 塩マチギ
 睫毛：喜マチギ
 塩ミーギシ

口：全クチ
 歯：全ファー
 塩津パー 宮ハー
 舌：喜兼宜シタ
 塩ヒチャー
 謝根シチャ
 根シツア
 屋宮スバ 津シバ

体：喜ドゥー 塩フルー
 胴：喜ドゥー
 肩：喜ハタ 塩ハター
 胸：全インニ 宮ンニ 津イニ
 乳：全チー
 乳房：喜チーブックウ
 塩チー
 へそ：喜フス・テンプス
 塩プス

手：全ティー
 腕：喜ウディ 塩ティー
 上腕：喜ヘンナ
 肘：全ピジ
 こぶし：塩ティティクン
 手のひら：喜ティーワタ
 塩ティーヌワタ

足：喜ピサ 塩ピサー
 謝ピシャ 宮ヒサ
 もも：喜ムム 塩ムムー
 膝：喜ピサンピジ 塩チンシ
 脛：喜シンニ・シンニブニ
 ふくらはぎ：
 喜シンニワタ 塩タイ
 かかと：喜アドゥ 塩ワラグチ
 くるぶし：喜ピンシブニ
 塩グフー

頭：全チブル 宮ツブル
 髪：全ハラジ 兼宜ハラジギー
 宮カラジ
 つむじ：喜マキ 塩チジ

鼻：全ファナ
 塩津パナ
 宮ハナ

顔：全チラ 根チラ・ツイラ
 額：喜ピツツアイ
 塩ピッチャイ
 頬：喜フー
 顎：喜アグ
 下顎：喜ハクジ
 塩ウトウゲー
 喉：喜ヌディー
 塩ヌーリー
 喉仏：喜ヌディーグフ
 塩ヌーリーグフー

背中：全フシ 宮ナガニ
 脇の下：喜ワキンツァ
 塩ワコーチ
 腰：喜フシ・フシブニ
 塩コーク
 尻：喜マイ
 塩チビタンバ

指：喜ウイビ 塩イビ
 親指：喜ウフウイビ
 塩ウフウィビ
 人差し指：喜ツーサシウイビ
 中指：全ナハウイビ
 薬指：喜ナーナシウイビ
 小指：全ウイビクワー
 爪：喜チミ 塩チミー



家族と親戚を表す言葉

※沖縄言語研究センター調査（1980年）を元にした。（農）・（土）は農民・土族を表す。

	謝名城	大宜味	屋古	津波
語彙	よみ・音声記号	よみ・音声記号	よみ・音声記号	よみ・音声記号
ひと（人）	チュー tʃu:	チュー tʃu: ツー tʃu:	ツ tsu チュ tʃu	チュー tʃu:
おとこ（男）	?ウフィガ ?uɸiga	?ウヒガ ?uhiga	フィガ huiga	イキガ ik'iga
おんな（女）	?ウナグ ?unagu	?イナグ ?inagu	?イナグ ?inagu	イナグ inagu
ちち（父）	?アチ ?atʃi（農） シューシュ ʃu:ʃu（土）	チャツチャー tʃattʃa: ツアツツアー tʃattʃa: （農）スー su:（土）	チチャー tʃitʃa:	チャツチャー tʃattʃa: （古い言い方） スー su:
はは（母）	?アム ?amu（農） ?アンシー ?anʃi:（土）	?アンシー ?anʃi:（農） ?アンマー ?amma:（土）	?アンシー ?anʃi:	?アンマー ?amma:
こ（子）	クワ k'wa:	クワ k'wa:	クワ k'wa ワラビ warabi	クワ k'wa:
そふ（祖父）	プスメー p'usume: プープー p'u:pu:	プスメー p'usume:	?ウンマー ?umme:	?ウスマー ?usume:
そぼ（祖母）	パーパー p'a:pa:	パツパー papp'a:	パツパー p'a:ppa:	パツパー papp'a:
としうえ（年上）	シジャハタ ʃidʒahata	シージャ ʃi:dʒa	シジャハタ ʃidʒahata	シージャ ʃi:ʒa トウシウイ t'uʃi?ui
とした（年下）	?ウットウ utt'u	?ウットウ ?utt'u	?ウットウ ?utt'u	?ウットウ ?utt'u
あに（兄）	ヤンミー jammi:	ヤンミー jammi:	ヤンミー jammi:	ヤンミー jammi:
あね（姉）	?アンガー ?aŋga:	?アンガー ?aŋga:	?アンナー ?aŋna:	?アンナー ?anna:
をなり	ウナイ wunai	?アンガー ?aŋga:	ウナイ unai	ウーナイ u:nai
ゑけり	ウキー uk'i:	?ウキー ?uki:	?ウキー ?uki:	ウーキー u:ki:
おじ	?インケー ?iŋk'e:	?インケー ?iŋke:	?ウジャサー ?udʒasa:	ウザサー uzasa: ウジャサー uʒasa:
おば	?ウンマー ?umma:	?ウンマー ?umma:	?ウバマー ?ubama:	ウバマー ubama:
おっと（夫）	ウトウ wut'u	ウトウ ut'u	ウトウ utu	ウートウ u:t'u
つま（妻）	トウジ t'udʒi	トウジ t'udʒi	トウジ tudʒi	トウジ t'udʒi
むこ（婿）	ムフ muhu	ムフ muhu ムーク mu:k'u （新しい言い方）	ムーク mu:k'u	ムーク mu:ku
よめ（嫁）	ユミ jumi	ユミ jumi	ユミ jumi	ユミ jumi

発刊のことば

この度、『大宜味村史 言語編』が発刊されるにあたり、村民の皆様並びに関係各位とともに、その上梓を心から喜びたいと思います。

これも偏に、編集及び執筆に携わって下さった専門部会並びに編さん委員会諸氏のご尽力の賜物と心より感謝申し上げます。

私たちの祖先が、時代の変遷とともに営々と築き上げてきた歴史と文化、それらを深く考察し、それらの歴史的事象を記録に留め、子孫に継承していくことは、今を生きる私たちの責務だと考えます。

自治体としての大宜味村の実体は、17のシマ（字・行政区）から成り、それぞれに個性と特色があります。

これまで、それらの特色を踏まえて、『シマジマ・ビジュアル版』、『戦争証言集』、『シマジマ本編』、『移民・出稼ぎ編』、『民俗編』を発刊してきました。

新村史編さんに共通する理念として、各シマの歴史文化、自然の特色等を、後世に受け継いでいく「宝物」と位置づけ取り組んで参りましたが、第6冊目となる本書『言語編』に於ても、その理念は同じです。

本書は、人々の身近な日常生活の中で使われてきた「言語」（方言）を後世に伝えるべく、927に亘る語彙について各字ごとに丹念な調査を行いました。よって、各地域・シマごとの比較検討もしやすく、今後の地域史研究等にもお役立て頂けるものと存じます。

本書が「教育・歴史・文化の輝く健康長寿村」づくりを提唱し、実践していくうえで、文化の薫り高い潤いある村民生活の一助になれば幸いです。

今後も新大宜味村史編さん基本計画に基づき、村民に親しまれ、活用される村史をめざし、引き続き村史編さん事業に取り組んで参る所存ですので、村民の皆様のご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、この度の発刊に際し、調査及び資料提供等にご協力いただいた村民の皆様、そして聞き取り調査をはじめ、編集・執筆にご協力いただいた関係者の皆様に対し、心より厚くお礼申しあげ、発刊のことばと致します。

2020年（令和2年）3月31日

大宜味村長 宮 城 功 光

あいさつ

この度、『大宜味村史 言語編』を発刊する運びとなりました。

国が違えば言葉も違うように、地域には地域のシマクトゥバがあり、それらは、培われてきた長い歴史や、そこに暮らす人々の生活や気質と深いつながりがあります。

本書は、第1章において大宜味村及び本村を構成する17のシマの歩みを紹介するとともに、それぞれのシマの歴史や文化の違いから来ることばの特徴や違いまたは同一性等を読み解こうと試み、その要因を探っています。第2章では大宜味村の言語の特徴を、沖縄県全体、山原地域、大宜味村内と視点を変えて述べ、幾つかの語彙については言語地図を用いて解り易く解説しています。さらに、これまでの研究記録を活用すると共に、生き字引である高齢者への聞き取り調査によって纏められた第3章の大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表は、各シマの言語の特徴が一目でわかり、頁をめくるごとにシマクトゥバの奥深さ、たおやかさ、温かさが胸に染み、ここに収集整理された927に及ぶ語彙の数々は、後世へ受け継ぐべき本村の言語遺産であるとも言えるでしょう。

戦後の急激な経済発展により、我々の言語は大きく影響を受け、この数十年ですっかり変貌を遂げました。その危機感から、2006年3月沖縄県議会で、毎年9月18日を「しまくとぅばの日」とする条例が定められ、県全体でシマクトゥバを後世に伝えていこうとする動きが盛んになる中、その地域特有の失われつつある言葉を守り伝えていくため、これまでの歴史をふまえて“今”の状況を切り取り、“大切にしたい宝物”として本書に記録しました。

先人達が古から築き上げてきた歴史と言語経験の中から、紡ぎ出され受け継がれてきたシマクトゥバに触れることで、そこに秘められた豊かさや英知を感じ取り、大宜味村の未来を展望する一助になれば幸いです。

結びに、発刊に当たり編さん作業にあたられた専門部会委員各位をはじめ、言語学の視点から本村を研究され、その知見をもとに執筆をいただきました新里幸昭氏、20年にも亘る調査研究の成果を快くご提供いただきました沖縄言語研究センターと名護市史及び関係者の皆様、また、忍耐の要る聞き取り調査にご協力いただいた村民の皆様に深く感謝を申し上げます。

この本が、村民を始め多くの方々の手にとってもらい、「宝物」として親しまれ、活用されることを願っています。

2020年（令和2年）3月31日

大宜味村史編纂委員会 委員長 米須 邦雄

凡 例

本書の作成に当たっては次の点に留意した。

1. 原則として旧字体は新字体に直し、旧仮名遣いは現代仮名遣いとした。
2. 年代は西暦（元号）年とし、数字は原則としてアラビア数字を基本とした。
3. 本文の記述では、「シマクトゥバ」の表記は、「方言」に統一した。なお、他の資料から引用している文献やコラムについてはその限りではない。
4. 漢字のルビについては、日本語読みの場合はひらがな、方言読みの場合はカタカナとした。
5. 「第1章 生活の中に息づく方言」では、近世から現代までの大宜味村及び各字の成り立ちや変遷などを大まかに説明し、歴史の違いからくる方言の特色を理解する一助とした。なお、間切時代の記述で「大宜味間切」とあるのは現在の大宜味^{そん}村、～^{むら}村とあるのは現在の字の事を指しており、混乱が生じないように「^{そん}村・^{むら}村」とルビを振って区別している。
6. 「第2章 大宜味村の方言」については、これまでに発刊された資料の解説を行うと共に、中・南部または首里・那覇の方言や、山原方言全体との比較や村内各字（地域）同士の比較を試みながら、村内各地区の方言の特色を概観できるように心掛けた。また、「大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表」を元に、音韻の特徴（声門破裂音、カ行子音のハ行化、ハ行子音のファ行化・パ行化、口蓋化現象が少ない、促音化現象が多い等）に着目して分布図を作成した。それらの特徴を明らかにし、地図上に分布の様子を落とし込むことにより、各シマジマをかたち作ってきた要素（古層の村か、屋取村か、シマンチュエ気質、祭祀行事への関わり方等）が見えてくるものと思う。
7. 「第3章 大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表」については、『喜如嘉誌』（喜如嘉誌刊行会 1996年）収録の、「第五章 六節 喜如嘉の方言」をベースに、音韻の特徴、アクセント、名詞、動詞、形容詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞、助詞の順で、927語彙について田嘉里・謝名城・喜如嘉・饒波・大兼久・大宜味・根路銘・上原・塩屋・屋古・田港・押川・大保・白浜・宮城・津波の16字において調査を行なった。
なお、江洲については、戦後、1959年に出来た開拓集落であり、入植者も現在は県内外各地からの移住者で構成されており、「江洲のシマクトゥバ」として特定することができないため、調査から除外している。よって、本書で、「村内各字」と表記する場合、江洲は含まないものとする。
8. 「大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表」は各区長に依頼し、出来るだけ生え抜きの古老や先輩方を被調査者として回答をいただくようお願いしたが、条件に該当する被調査者は中々おられず、調査結果にバラつきがあることは否めない。あくまでも、調査時（2017～2019年）の現況としてご理解いただきたい。また、音声表記やアクセントについては、事務局の力不足により記載できなかったことに弁解の余地はない。

9. 「大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表」においては、各区から提出された調査票を事務局で整理・入力したものを各区に返し、確認・追加・訂正を行なってもらうことを2～3回繰り返して、精度を高めることに務めたが、回答の少ない区や気になる箇所については、事務局が直接聞き取りを行い記入した。

10. 「大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表」は、次のような決まり事に従って整理した。

①各区の回答はカタカナで表記し、アクセント、音声記号の表記は行っていないが、例外として声門破裂音（詰まる音）のみ、音声記号 [ʔ] で表し区別した。

（例：君 ッヤー、イヤー、イヤー ⇒ ʔヤー）

②語尾で同じ母音が重なるときは長音に統一した。

（例：父 オットオ ⇒ オットー、オットウ ⇒ オットウ）

③一つの語彙に対して複数の回答がある場合は、マス目の許す限り記載した。

（例：母 ⇒ ʔアンシー、ʔアンマー、ʔアンム一等）

④重複している設問の語彙は統合し、重要な音韻確認に必要な場合に限り、同一の語彙を用いている。

⑤分かりづらい語彙や明らかな誤りが認められる語彙は訂正した。

（例：青大将 ⇒ 琉球青へび、むつごろう ⇒ とびはぜ、わらび ⇒ 小しだ等）

⑥「かご・ざる・ふるい」は細分化されすぎてわかりづらいため、国立国語研究所『沖縄語辞典』1963年（P655 かご：baaki,kuu,sjooki/ ーの一種 ʔutusigoo,baara,miibaaraa,sagiz,oo-kii,tiiru P 693 ざる：baaki,sooki/ 目の荒い～ ʔara-baaki/ ーの一種 miiz,ookii,sagidiiru,tiiru,tiiz,ooki P 778 ふるい：'jui, ーの一種 ʂiinoo）に則り、それぞれ次のように整理・統合した。

竹製の籠、籠、竹製の平たい籠、竹籠 ⇒ かご・ざる

ふるい、選別用ふるい ⇒ ふるい

芭蕉糸入れ竹かご ⇒ 芭蕉糸入れかご

背負いかご ⇒ 竹製の背負いかご

⑦専門性が高く理解しづらい語彙は、削除または補足説明を加えた。

（例：さふらんおとめふで（貝類）⇒ 削除

釜（うけ）⇒ 補足説明（水中で使う捕獲用の罟）

⑧調査語彙の中には、差別用語に当る語彙も含まれているが、あくまでも1サンプルとして記録することが目的であり、他意はないことをご理解願いたい。

11. 「第4章 資料編」では、琉大方言研究クラブにより発行されている機関誌『琉球方言』第4号（1962年）・第5号（1963年）・第6号（1964年）・第7号（1966年）より大宜味村の調査資料と、1979年から1988年にかけて実施された沖縄県言語県言語研究センターによる『琉球列島の言語の研究』（喜如嘉、大兼久、根路銘、塩屋、宮城の調査データ）と、名護市史編さん委員会による1982年の調査『名護・やんばる地域の言語の研究』（謝名城、大宜味、屋古、津波の調査データ）を掲載しており、“聞く耳”を持つ研究者による専門的な調査の成果である。その詳細なデータは大変参考になるものであり、大宜味村の宝である。本書への収録に際して、音声表記のみのデータに事務局でカタカナ表記を追加している。よって、カタカナ表記に誤りがある場合は、全て事務局の責に帰すものである。

12. 「大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表」と「琉球方言」各号、「琉球列島の言語の研究」、「名護・やんばる地域の言語の研究」の冒頭に、それぞれ、整理番号と語彙の一覧を掲載し検索の一助とした。

13. 「第4章 資料編」に「おおぎみの昔話」、「島クトゥバで語る戦世」と、「書いて残そう島々の言葉」（2011年滞米請求権協会 琉球諸語継承事業）の中から、本村田港出身の山入端利子氏の文章を収録した。
14. 「シマクトゥバで語る戦世」については、琉球弧を記録する会のご協力により、1997年から2003年にかけて採集された多数の証言の中から、大宜味村内の戦争体験者12名の赤裸々な証言の映像を入手し、映像から方言の文字起しを行う際には、できるだけ証言者の発した音のままを文字に変換し、リアルな感情や息遣いが伝わるように心がけ、それを元に口語訳をつけて掲載した。
15. 「おおぎみの昔話」、「島クトゥバで語る戦世」、「書いて残そう島々の言葉」の表記は、方言の文章を左側に、口語訳を右側に配置し、対応する段落同士的位置を合わせることを心掛けた。
16. 「島クトゥバで語る戦世」及び「おおぎみの昔話」では、句読点を多く用い、方言のどの文章が口語訳のどの文章に対応するかが分かるように配置したが、その結果おかしな口語訳の文章になる場合は、文節や単語の位置を入れ替えたり、省略または言外の意味を（ ）内に補足する等して、できるだけ読みやすい文章になるように心掛けたが、その両立は容易でなく、成功しているとは言えない。
17. 各章の扉や章、節等の頭に使用している象形文字（※一般的にはカイダー一字と呼ばれる）は、「與那國島通用字符」として『南島探検』（笹森儀助 明治27年）に掲載されているものを参考に作成したものである。
18. 本書の編さんに活用させていただいた多くの史資料は、巻末に「参考文献」として記載した。

大宜味村史 言語編

目次

グラビア	3
発刊のことば	9
あいさつ	10
凡例	11
目次	14
第1章 生活の中に息づく方言	17
第1節 大宜味村の概要と変遷	19
第2節 各集落のあゆみ	21
第3節 大宜味村の成り立ちと資料からみる言語分布	38
第4節 7つの視点から大宜味村の言語を見る	40
第2章 大宜味村の方言	49
第1節 はじめに	51
第2節 大宜味村の方言の位置	51
第3節 大宜味村方言研究のあゆみと調査資料	52
第4節 大宜味村方言音韻の特徴	65
第5節 語彙	99
第6節 語法	101
第7節 語彙の言語地図	113
第3章 大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表	133
大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表について	135
調査語彙一覧	137
表記のための仮名遣い表	144
1、声門破裂音	145
2、カ行子音のハ行化 カキクケコ→ハヒフヘホ	146
3、ハ行子音のファ行化・パ行化 ハヒフヘホ→ファフィフフェフォ パピプ	149
4、口蓋化現象が少ない	152
5、促音化現象が多い	154

6、長母音化現象が少ない	169
7、アクセント	170
8、語彙語法の特徴 名詞	183
9、動詞	240
10、形容詞	243
11、副詞	264
12、連体詞	310
13、接続詞	321
14、感動詞	327
15、助詞	353
被調査者一覧	379
第4章 資料編	381
a、『大山成子「琉球方言における二音節名詞のアクセント」』1962年5月	387
b、『琉球方言研究クラブ『琉球方言』第5号』1963年5月18日	388
c、『琉球方言研究クラブ『琉球方言』第6号』1964年5月25日	389
d、『琉球方言研究クラブ『琉球方言』第7号』1966年4月20日	390
『琉球列島の言語の研究』『名護・やんばる地域の言語の研究』	393
『おおぎみの昔話』	451
『書いて残そう島々の言葉』 ぬばがい	468
『島クトゥバで語る戦世』	471
『喜如嘉(キズカ・キザハ)語(ムニ・グチ)集』	493
あとがき	496
参考文献	497
奥 付	

第1章

生活の中に息づく方言



第1章 生活の中に息づく方言

第1節 大宜味村の概要と変遷



與那國字符
「くり船」

1. 大宜味村の概要

大宜味村は沖縄本島北部の西海岸に位置し、北に国頭村、東に東村、南に名護市と接している。県都那覇市から北に87 km、北部圏の拠点都市である名護市中心部からは約22 kmの距離にある。村域は東西8 km、南北13.3 km、総面積63.55 km²で、県内第9番目の広さとなっているが、総面積の76%は森林で、ほぼ中央に標高300 m内外の山々が連なり、その山々を源として大保川（延長12 km）をはじめ大小17の河川が東シナ海に注いでいる。

海岸部まで迫った急傾斜と海との狭隘な平地に肩を寄せ合うように14の集落が散らばり、山地平坦部に3つの屋取集落が点在している。2019（令和1）年1月末現在の人口は3,067人、世帯数1,649となっており、過疎化が進行している。



與那國字符
「牛券」

2. 大宜味間切の村の変遷

古琉球の時期には、大宜味間切はなく国頭間切に属していた。『球陽』尚貞王五年条（1673年）などによると、同年に羽地間切から2ヶ村、国頭間切から11ヶ村を割いて「田港郡」（田港間切）が設置され、向象賢（羽地王子朝秀）・向日躋（屋嘉比親雲上朝慈）が惣地頭に任じられている。のち田港間切は大宜味間切と改称される。

『琉球国由来記』（1713年）に大宜味間切、『琉球国旧記』（1731年）では大宜味郡、『球陽』では大宜味郡、大宜味県などとも記される。当初の所属村は渡野喜屋・田湊・屋古・前田・塩屋・根路銘・饒波・喜如嘉・根謝銘・城・屋嘉比の11ヶ村で、のち親田・見里・大宜味・一名代が新たに設置され、屋古と前田が合併して屋古前田村となったため14ヶ村となる。

1965（康熙34）年に間切の境界に変動が生じ、久志間切の平良村・川田村（現東村）が大宜味間切に編入され、太平洋に面する東海岸の2村まで大宜味間切となり、同時に親田村・屋嘉比村・見里村が国頭間切に組み込まれた。しかし同1719（58）年にこれら5ヶ村にとって不便だとして、それぞれ元の間切に戻された経緯がある（以上『球陽』尚敬王七年条（1719年））。

田港間切が大宜味間切と改称される時、間切番所は田港村から大宜味村に移転し、それまで登場してこなかった大宜味村が登場するようになる。その時の大宜味間切の村は、城・根謝銘・喜如嘉・大宜味・田湊・塩屋・津波・平南・平良・川田・屋古前田・饒波・根路銘の13ヶ村である。

平良村と川田村は『絵図郷村帳』（1649年）と『正保国絵図』（1644年～）では名護間切のうち、1695年に大宜味間切に組み込まれ、1719年に久志間切に編入される。

1903（明治36）年に親田・屋嘉比・見里が合併して田嘉里村に、根謝銘・一名代・城が合併して謝名城村となる。

1908（明治41）年に、それまでの大宜味間切は大宜味村となり、津波、渡野喜屋、田港（屋古前田村含む）、塩屋、根路銘、大宜味、饒波、喜如嘉、謝名城、田嘉里の各村は字～となる。

1929（昭和4）年に、大保が田港から、上原が根路銘と塩屋の一部から、宮城は津波から、押

川は塩屋、根路銘の一部をとって分離、各々行政区（字）となった。

1930（昭和5）年に屋古が田港から分離、大兼久は1946（昭和21）年に大宜味から分離して行政区となった。また、同年、渡野喜屋は白浜に改称される。戦後の開拓集落江洲は、1962（昭和37）年に行政区となる。

このような変遷を踏まえ、大宜味村内のシマジマを俯瞰すると、古琉球からの古層の村とそこから分れた若い村、または屋取村の関係がよくわかり、ノロ管轄や祭祀の繋がりを理解することができる。

大宜味村はノロ管轄からすると、4つのまとまりで見ることができる。屋嘉比ノロ管轄域（親田・屋嘉比・見里（田嘉里）と国頭村の浜）、城ノロ管轄域（根謝銘・一名代・城（謝名城）、喜如嘉、大宜味（後に大兼久が分離）、饒波）、田港ノロ管轄域（田港、屋古、塩屋、根路銘、渡野喜屋）の3つと、羽地間切から大宜味間切に組み込まれた津波ノロ管轄（津波、平南（平南村は後に津波村と合併するが年代は不明））である。

屋取集落である上原、押川、大保、宮城についてみると、現在、上原と根路銘は共同でウンガミを行っているが、本来、根路銘は田港ノロ管轄のもと塩屋のウンガミに参加していたものが、明治末期にウンガミの角力の審判で騒動があったことから、それ以来独自に祭祀を行うようになり、後に上原と合同で行うようになったものである。塩屋と根路銘の一部から分離した押川、田港から分離した大保は塩屋のウンガミに参加する。戦後に誕生した江洲は、当初、塩屋からの入植が多かったため塩屋のウンガミに参加している。津波から分離した宮城はウンガミのような伝統行事はない。

大宜味村（間切）の人口動態			
年	戸数（戸）	合計（人）	男・女（人）
明治 13（1880）	982	4,967	2,481・2,486
明治 23（1890）	1,182	6,528	
明治 36（1903）	1,375	7,936	3,881・4,055
// 士族	183	1,108	
大正 4（1912）	1,571	8,812	4,139・4,673
大正 10（1921）	1,724	8,780	
大正 14（1925）	1,703	8,026	
昭和 15（1940）	1,702	7,622	
昭和 25（1950）	2,146	9,208	
昭和 35（1960）	1,722	7,648	
昭和 45（1970）	1,372	4,535	
昭和 52（1977）	1,286	3,937	1,866・2,071
昭和 57（1982）	1,271	3,472	1,654・1,818
平成元年（1989）	1,398	3,566	1,739・1,827
平成 5（1993）	1,412	3,481	1,699・1,782
平成 10（1998）	1,436	3,478	1,720・1,758
平成 15（2003）	1,572	3,534	1,761・1,773
平成 20（2008）	1,608	3,417	1,722・1,695
平成 25（2013）	1,670	3,358	1,730・1,628
令和 1（2019）	1,649	3,067	1,611・1,456

※明治 13、36、大正 9、昭和 15～45 は『角川日本地名大辞典 47 沖縄県』、大正 4 年は『沖縄懸国頭郡志』、昭和 52 年以降は住民基本台帳による



第2節 各集落のあゆみ

■ 田嘉里



田嘉里は、北は国頭村浜、南東は東村に接し、大宜味村の最北端に位置する。集落は国道58号沿いの浜集落から山手に約800m入った丘陵地帯の谷間にあり、集落に入ると右側にネジャメ（ウイ）グスク（根謝銘（上）城）があり、集落の中に田嘉里川（屋嘉比川）が流れている。山地は国頭山地とその西側に開ける河岸段丘と丘陵地からなる。

1673年に田港間切が創設された頃は国頭間切に属し、1692年に田港間切が大宜味間切と改称されたときも国頭間切のままである。屋嘉比村は『絵図郷村帳』（1648年）に記録されており、古琉球時代に形成された古い集落である。親田村、

見里村は『琉球国由来記』（1713年）には国頭間切の村としてあり、18世紀初頭には村として機能していたとみられる。大宜味間切の村としての記録が見られるのは、『間切村名尽』（1719年）からとなる。

親田、屋嘉比、見里の三つの村は、1903（明治36）年に合併するとき、各村の名から1字ずつ取って田嘉里村となった。1908（明治41）年に大宜味間切は大宜味村となり田嘉里村は字田嘉里となる。

『おもろさうし』には、屋嘉比港が港として利用されていた状況が謡われ、かつての河口は現在の河口から1km以上内陸に入った屋嘉比集落付近にあり、17世紀の中頃までは高台にある小字屋嘉比上原の下まで山原船が入るくらい川は広く深かった。ネジャメ（ウイ）グスク（根謝銘（上）城）が利用されていた頃の港はこの地だったと考えられる。当時、屋嘉比港には沖縄本島周辺各地や、さらに奄美諸島との交易船が盛んに出入りし、大正期には山原船が停泊し、薪炭や木材を積み出していた。グスク時代の港は後世堆積して陸化し、上福地や中福地、前田などの小字名に名残を留めている。

旧3村（親田・屋嘉比・見里）と国頭村浜の祭祀は、屋嘉比ノロが管轄しており、行政的に分離されながらも、4集落の祭祀は深い繋がりを持って継承されてきた。また、ネジャメ（ウイ）グスク（根謝銘（上）城）内のウフグシクウタキ：イベ（大城御獄）は、屋嘉比ノロが管轄する御獄として現在でも田嘉里が拝んでいる。

年中行事の祭祀場となる神アサギは、屋嘉比バールの最も高所にあり、その周辺に山口、芝といった旧家が立ち並んでいる。これらの背後には、山口の祖先と喜界島のノロとの伝承のあるクガリ山があり、シマの重要な拝所である。

田嘉里の人口動態			
村名	戸数	計	男・女
明治13年（合併前）			
屋嘉比村	28	161	82・79
親田村	25	136	65・71
見里村	27	166	85・81
明治23年（合併前）			
屋嘉比村	35	193	99・94
親田村	28	157	73・84
見里村	33	202	107・95
年（合併後）	戸数（戸）	計（人）	男・女（人）
明治36	139	681	351・330
〃 士族	1	5	
大正10	167	839	
昭和30	171	811	
昭和47	108	385	
昭和52	109	359	172・187
昭和57	109	305	147・158
平成元	111	286	132・154
平成5年	112	285	137・148
平成10	106	293	138・155
平成15	121	322	155・167
平成20	133	330	167・163
平成25	133	317	162・155
令和1	126	260	133・127

第3章

大宜味村各集落（シマ）の 方言一覧表



■大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表について

大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表は、『喜如嘉誌』（喜如嘉誌刊行会 1996年）「第5章6節 喜如嘉の方言」に収録されている語彙をベースに田嘉里・謝名城・饒波・大兼久・大宜味・根路銘・上原・塩屋・屋古・田港・押川・大保・白浜・宮城・津波の15字で、字の協力のもと調査を行い927の語彙を収録することができた。

大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表の各項目とその詳細を、『喜如嘉誌』より以下に転載する。なお、これらは喜如嘉を対象に調査しまとめられたものなので、それ以外の字にもその通り当てはまるということではないので、ご理解願いたいただきたい。また、『喜如嘉誌』では8の名詞、14の感動詞については記述がなく例文のみであったため、事務局で説明を補足した。

1、声門破裂音

喜如嘉方言でも北琉球方言の一般的な特徴といわれる声門破裂音〔ʔ〕の有無で意味を区別する。

2、カ行子音のハ行化

北部方言の特徴であるカ行子音のハ行化が喜如嘉方言でも観察される。

3、ハ行子音のファ行化・パ行化

ハ行子音のファないしパ行音化が観察される。

4、口蓋化現象が少ない

「衣」が「チン」、「来る」が「チューン」になる南部方言などに比べて、喜如嘉方言は「キン」「クン」などと口蓋化現象が少ない。カ行・ガ行・サ行・ザ行などがチャ・チャ・シャ・ジャ行などにならない場合が多い。

5、促音化現象が多い

喜如嘉方言では、破裂音 p, t, k (パ、タ、カ行)、摩擦音 s, h (サ、ハ行)、破擦音 tʃ, tʃ (ツァ、チャ)の子音が先行する母音の後、前掲の各子音が後続する際それぞれの子音が一拍分持続して、詰まる音声現象が多く観察される。

6、長母音化現象が少ない

国語の一音節語の場合は、「ヒー（木）」のように長母音化するが、二音節語などでは国頭村・大宜味村・東村方言の多くの地域と同じく、羽地・屋我地・今帰仁方言に比べてそれが少ない。

7、アクセント

国語の一音節語は、拍数からは二音節語と同じく二拍になる。例えば一音節語の「手」は、喜如嘉方言では「ティー」となり、二音節語の「花」の「ファナ」と同じく二拍になることをさす。拍とは、音声の長さの一区切りであり、その長さの数を拍数と言うのである。

「葉」と「歯」は、どちらも方言で「ファー」と書くが、発音するときは、「葉」の場合は上がり下がりがなく平坦に発音するが、「歯」の場合は「ファ」より伸びた部分「ー」が高く発音され意味が区別される。このようなことをアクセントという。喜如嘉方言のアクセントを整理してみると、ほぼ次のようになる。

○は一拍を示し、△は助詞「ヌ」をつけて発音する場合である。●▲はそれぞれにアクセントがきて高くなることを示す。

8、喜如嘉方言の名詞

名詞は、昔から生活の中にあって日常的に関わりがあった農機具、人間関係、動物、植物を取り上げた。

9、喜如嘉方言の動詞

人や事物の動作・作用・存在を表す語を動詞という。

国語では、動詞は言い切る形〈終止符〉が「ウ」段の音であるが、沖縄本島方言では、動詞のすべてが「ン」の音で終わる特徴を示している。語尾が「ン」で終わるとはいつても、よく考察してみると、「イン」「ユン」の形をとる語があることがわかる。

喜如嘉方言の例でみれば、国語の文語文法における四段活用のうち、カ行四段活用の「書く」「行く」、サ行四段活用の「押す」「越す」、マ行四段活用の「生む」「読む」などの語は、それぞれ〈ハクン〉〈?イクン〉〈?ウスン〉〈サスン〉〈?ウムン〉〈クムン〉というように、終止形の活用語尾が「ン」の形をとる。同じように、カ行変格活用の「来」が〈クン〉、サ行変格活用の「す」が〈スン〉、ナ行変格活用の「死ぬ」〈シヌン〉も、活用語尾が「ン」

で終わっている。

また、八行四段活用の「思う」「買う」、ラ行四段活用の「成る」「降る」の語は、それぞれ〈?ウムイン〉〈ホーイン〉〈ナイン〉〈フイン〉というように、終止形の活用語尾が「イン」となっている。これらと同じ形をとるものにはラ行変格活用の「有る」〈?アイン〉がある。

そのほか、上一段活用の「見る」〈ミーン〉、上二段活用の「起きる」〈?ウヒーン〉、下一段活用の「蹴る」〈ヒー〉、下二段活用の「出る」〈?イヂーン〉の語には、いずれも「ーン」のような長音化現象がみられる。

以上のように、喜如嘉方言の動詞の活用語尾は、①「ン」[N]②「イン」「iN」③「ーン」[:N]の三つのタイプに分けることが出来る。そのうち、長音化した[:N]は、[iN]の変化したものと考えられる。なお、喜如嘉方言には、首里方言や那覇方言にみられるような活用語尾が「ユン」[jun]という形をとるものはみられない。

言語学者の仲宗根政善氏はその著書『琉球方言の研究』の中で、「琉球方言の同志の終止形は、宮古方言を除いては文語の動詞の連用形に『居り』が複合して出来た形である。」と、その成立を説明しておられるが、喜如嘉方言もその考え方にほぼ当てはめることが出来る。

10、喜如嘉方言の形容詞

事物の性質や状態、あるいは人の感情を示す語を「形容詞」という。

琉球方言では、例えば首里方言・那覇方言などで「高い」を〈タカサン〉と言うように形容詞の終止形の語尾は「一サン」となっている。

ところが、喜如嘉方言における終止形の語尾は、「一ハン」という形をとる。「高い」は〈タカハン〉、「寒い」は〈ピーハン〉、「美しい」は〈クラハン〉というように、ほとんどの語が「一ハン」の形をとる。例外的に「薄い」を〈ピッサン〉というように、語尾が「一サン」となる語が数語あるが、これらの語は二音節めが促音(つまる音)の場合のみ現れる現象である。(ただし、複合語の場合を除く。)

沖縄本島方言における形容詞終止形の語尾の形には「一サン」「一ハン」のほかに、その変形と考えられる「一セン」「一シェン」「一ヘン」などがある。

喜如嘉方言には、国語における「ク活用」「シク活用」に対応する区別はみられない。

11、副詞

自立語で活用がなく、主語にも述語にもならず、主として用語および状態を示す体言または他の副詞を修飾する語である。

12、連体詞

自立語で活用をもたず、主語にも述語にもならず、体言だけを修飾する語である。

13、接続詞

二つ以上の語、文節、文などを接続する働きを持ち、後に述べられる事柄が、前に述べられた事柄に対してどのような関係にあるかを示す語を接続詞と言う。(『現代国語例解辞典』による。)

14、感動詞

国語では自立語の一つ。感動を表わすもの(文語、あな・あはれ・すは、口語、おや・まあ)、呼びかけを表わすもの(文語、いかに・なうなう・やよ、口語、おい・こら・もし)、応答を表わすもの(文語、いな・いや・おう、口語、はい・うん)、さそいかげに用いるもの(文語、いざ・いで、口語、さあ)など。その他、挨拶(あいさつ)に用いる語(おはよう・しっけい)、願望を表わす語(ばんざい・いやさか)、命令を表わす語(きをつけ・まわれみぎ)や、かけごえ(よいしょ・それ)、間投声(えー・あの一)を含めることもある。これらは単独で文を構成するが、文頭、文中、文末などに他の文節とは直接の成分関係を持たない独立語として用いられることも多い。

15、助詞

助詞とは、他の語の下に付いてだけ用いられる語(付属語)で、活用がなく、①語と語の関係を示したり、②細かな意味を添えたりする語をいう。日本語の文法では、格助詞、接続助詞、副助詞、係助詞、終助詞、間投助詞などがある。しかし、ここでは上記の①、②の二つに分けて示す。

調査語彙一覧

- | | | | |
|---|------------------------------------|----------------------------|------------------------------|
| 1. 正門破裂音 | 35 蠅 (はえ) | 5. 促音化現象が多い
tの例 | 103 すぐ近く (すぐちかく) |
| | 36 骨 (ほね) | | 104 らっきょう |
| 1 君 (きみ) | 37 箱 (はこ) | 68 湿地 (しっち) | 105 ひどく・とつても |
| 2 矢 (や) | 38 日 (ひ) | 69 ぬかるみ | 106 熾火 (おきび) |
| 3 魚 (さかな) | 39 髭 (ひげ) | 70 屋敷内の畑 (やしきな
いのはたけ) | 107 鱗 (うろこ) |
| 4 世 (よ) | 40 屁 (へ) | 71 蓋 (ふた) | 108 夜更け (よふけ) |
| 5 豚 (ぶた) | 41 干瀬 (ひせ) | 72 正直 (しょうじき) | 109 棟 (むね) |
| 6 輪 (わ) | 42 額 (ひたい) | 73 一昨日 (いっさくじつ) | 110 意地悪 (いじわる) |
| | 43 昼 (ひる) | 74 健康 (けんこう) | 111 浮き (うき) |
| 2. カ行子音のハ行化
カキクケコ→ハヒフヘホ | 44 暇 (ひま) | 75 砂糖 (さとう) | 112 負債 (ふさい) |
| | 45 星 (ほし) | 76 うっかり | 113 子 (こ) |
| | 46 節 (ふし) | 77 全く・さっぱり (まっ
たく・さっぱり) | 114 挟む (はさむ) |
| 7 垣 (かき) | 4. 口蓋化現象が少ない | 78 板 (いた) | 115 隠す (かくす) |
| 8 皮 (かわ) | | 79 弟 (おとうと) | 116 しゃっくり |
| 9 紙 (かみ) | 47 商売 (しょうばい) | 5. 促音化現象が多い
kの例 | 117 椿 (つばき) |
| 10 明り (あかり) | 48 開く (ひらく) | 80 帯 (おび) | 118 やかん |
| 11 お椀 (おわん) | 49 罰金 (ばっきん) | 81 引きちぎる (ひきちぎ
る) | 119 娘 (むすめ) |
| 12 草刈り (くさかり) | 50 突く・つつく
(つく・つつく) | 82 煎る (いる) | 120 枕 (まくら) |
| 13 床 (ゆか) | 51 月 (つき) | 83 出会う (であう) | 121 盲 (めくら) |
| 14 木 (き) | 52 聞き分け (ききわけ) | 84 こぼす | 122 櫓 (やぐら) |
| 15 毛 (け) | 53 気だて (きだて) | 85 生かす (いかす) | 5. 促音化現象が多い
t fの例 |
| 16 蜘蛛 (くも) | 54 衣 (ころも) | 86 こしらえる | |
| 17 蹴る (ける) | 55 烏賊 (いか) | 87 はちきれる | 123 満ちる (みちる) |
| 18 返し (かえし) | 56 来る (くる) | 88 厄介者 (やつかいもの) | 124 海人草 (かいにんそう) |
| 19 帰る (かえる) | 57 海神 (かいじん) | 89 かき混ぜる (かきまぜ
る) | 125 鯉 (かつお) |
| 20 粉 (こな) | 5. 促音化現象が多い
pの例 | 90 囲い (かこい) | 126 糸 (いと) |
| 21 声 (こえ) | | 91 粗忽者 (そこつもの) | 127 明日 (あした) |
| 22 腰 (こし) | 58 切れ端 (きれはし) | 92 歩く (あるく) | 128 お灸 (おきゅう) |
| 23 去年 (きょねん) | イッパー (※木を削っ
た道具を使ってする子
供の遊び) | 93 浮かべる (うかべる) | 129 土 (つち) |
| 24 米 (こめ) | 59 引っ張る (ひっぱる) | 94 お粥 (おかゆ) | 130 苺 (いちご) |
| | 60 誤り (あやまり) | 95 ありがとう | 131 燕 (つばめ) |
| 3. ハ行子音のファ行化・
バ行化
ハヒフヘホ→ファフィ
フフェフォ・パピブ | 61 粗暴な者 (そぼうなも
の) | 96 危ない (あぶない) | 132 朽ちる (くちる) |
| | 62 分配 (ぶんぱい) | 97 香炉 (こうろ) | 133 松 (まつ) |
| 25 歯 (は) | 63 ひめはぶ | 98 埃 (ほこり) | 134 腎臓 (じんぞう) |
| 26 禿 (はげ) | 64 婚約 (こんやく) | 99 腹が張ること (はらが
はること) | 5. 促音化現象が多い
sの例 |
| 27 話 (はなし) | 65 おんぶ | 100 浮く (うく) | |
| 28 離れ (はなれ※建物等) | 66 吸う (すう) | 101 ご馳走 (ごちそう) | 135 薄い (うすい※厚いの
対義語) |
| 29 羽 (はね) | | 102 境 (さかい) | 136 片っ端から全て (か
たっぱしからすべて) |
| 30 蜂 (はち) | | | 137 一升 (いっしょう) |
| 31 櫛の木 (はげのき) | | | 138 安い (やすい) |
| 32 柱 (はしら) | | | |
| 33 払う (はらう) | | | |
| 34 垢 (あか) | | | |

139 軽い (かるい)	二音節語	○○○● ○○○●△	○○●●○○
140 おできで皮膚がガサガサしている者	166 雨 (あめ)	193 雨戸 (あまど)	○○●●○○△
141 浅い (あさい)	167 花 (はな)		213 農夫 (のうふ)
142 薬 (くすり)	168 鳥 (しま)	○●●● ○●●●△	214 泥だらけ (どろだらけ)
143 へそ	169 笠 (かさ)	194 弁当 (べんとう)	215 火の神の前 (ひのかみのまえ)
144 炭 (すみ)	二音節語	195 棒切れ (ぼうぎれ)	216 歯ぎしり (はぎしり)
145 昼飯 (ひるめし)	●○ ●○△	○●○○ ○●○○△	○○●●●●
146 飢饉 (ききん)	170 息 (いき)		○○●●●●△
147 加勢 (かせい)	170 舟 (ふね)	196 甲いか (こういか)	217 うるさい奴 (うるさいやつ)
5. 促音化現象が多いhの例	172 瓶 (かめ)		
	173 鑿 (のみ)	・五拍の形	・七拍の形
		○○○○○ ○○○○○△	○○○○●○○ ○○○○●●○○△
148 なるほど (※感動詞)	・三拍の形	197 へそ曲がり (へそまがり)	218 半分っこ (はんぶんっこ)
	○○○ ○○○△	198 反逆者 (はんぎゃくしゃ)	
6. 長母音化現象が少ない	174 怒り (いかり)	199 そばかす	8. 名詞
	175 麴 (こうじ)	200 鼻声 (はなごえ)	(1) 農機具
	176 垢 (あか)		219 鍬 (くわ※総称)
149 花 (はな)			220 平鍬 (ひらぐわ)
150 島 (しま)	○●○ ○●○△	○○○●○ ○○○●○△	221 三つ又鍬 (みつまたぐわ)
151 笠 (かさ)	177 ざる	201 金たらい (かねたらい)	222 つるはし
152 汗 (あせ)	178 病気 (びょうき)	202 ばんじろう	223 鎌 (かま)
153 夜 (よる)	179 蝶 (ちょう)		224 へら
7. アクセント	○○● ○○●△	○○●●○ ○○●●○△	225 あさがね (※堀串・堀棒)
・二拍の形	180 大事 (だいじ)	203 お粥 (おかゆ)	226 犁 (すき)
○○ ○○△		204 高価 (こうか)	227 馬鍬・代かき (まぐわ・しろかき)
一音節語	●●○ ●●○△	205 禿頭 (はげあたま)	228 えぶり・とんぼ・苗代ごて (なわしろごて)
154 血 (ち)	181 い草 (いぐさ)		田植え縄・整条縄
155 帆 (ほ)	182 競争 (きょうそう)	○○○●● ○○○●●△	229 (たうえなわ・せいじょうなわ)
156 名 (な)	183 鼻水 (はなみず)	206 逃げ馬 (にげうま)	230 除草機 (じょそうき)
157 葉 (は)	184 食料 (しょくりょう)	207 汚れ者 (よごれもの)	231 肥え桶 (こえおけ)
	185 風邪 (かぜ)	208 払い者 (はらいもの)	232 粃すり臼 (もみすりうす)
二音節語	○○●○ ○○●○△	○○●●● ○○●●●	233 搗き臼 (つきうす)
158 風 (かぜ)	186 風呂敷 (ふろしき)	209 離れ島 (はなれじま)	234 縦杵 (たてきね)
159 石 (いし)	187 いたずら	・六拍の形	235 千歯こき (せんばこき)
160 鼻 (はな)	188 弱虫・病弱 (よわむし・びょうじゃく)	○○○○○○ ○○○○○△	藁むしろ (わらむしろ)
161 音 (おと)		210 汚れ者 (よごれもの)	※穀物を干す粗く編まれたもの)
一音節語	○○●● ○○●●△	○○○○●○	237 かご・ざる
○● ○●△	189 気絶 (きぜつ)	○○○○●○△	238 ふるい
163 木 (き)	190 泥足 (どろあし)	211 曲尺 (かねじゃく)	239 芭蕉糸入れかご (ばしょういと入れかご)
163 目 (め)			
164 田 (た)	●●○○ ●●○○△	○○○○●●	
165 火 (ひ)	191 ロース肉 (ろーすにく)	○○○○●●△	
	192 祖先 (そせん)	212 半ば (なかば)	

240	竹製の背負い籠 (たけ せいのせおいかご)	278	孫 (まご)	319	利発者 (りはつもの)	352	むくれている人 (むく れているひと)		
241	もっこ がんしな (※荷を安定 させるために用いる 輪っか)	279	兄弟姉妹 (きょうだい しまい)	320	元気者 (げんきもの)	353	太っている人 (ふとっ ているひと)		
242	山用道具 (やまようど うぐ※総称)	280	男きょうだい (おとこ きょうだい)	321	よそ者 (よそもの)	354	腹の出た人 (はらので たひと)		
243	鋸 (のこぎり)	281	女きょうだい (おんな きょうだい)	322	良い子 (よいこ)	355	やせた人 (やせたひと)		
244	斧 (おの)	282	男 (おとこ)	323	強い者 (つよいもの) 弱い者・病弱者・怠け 者 (よわいもの・びよ うじゃくもの・なまけ もの)	356	毛深い人 (けぶかいひ と)		
245	肩当て (かたあて※荷 担の時に当てる獣皮や 布)	283	女 (おんな)	324	働きの者 (はたらきもの)	357	眼病病み (がんびょう やみ)		
246	鉞 (なた)	284	男の子 (おとこのこ)	325	友人 (ゆうじん)	358	髪がぼさぼさに伸びた 人 (かみがぼさぼさに のびたひと)		
248	手斧 (ちょうな)	285	女の子 (おんなのこ)	326	他人 (たにん※身内の 対語)	359	美人 (びじん)		
249	漁業用道具 (ぎょぎょ うようどうぐ※総称)	286	男女きょうだい (だん じょきょうだい)	327	病人 (びょうにん)	360	美人でない人 (びじん でないひと)		
250	さばに	287	夫婦 (ふうふ)	328	唾 (おし)	361	目の大きい人 (めのお おきいひと)		
251	櫂 (かい)	288	親 (おや)	329	狂人 (きょうじん)	362	取り柄のない人 (とり えのないひと)		
252	あかとり	289	おじ	330	癩病者 (らいびょう しゃ)	363	頑張り者 (がんばりも の)		
253	伝馬船の櫓 (てんませ んのろ)	290	おば	331	ひょうきん者 (ひょう きんもの)	364	外国人 (がいこくじん ※白人)		
254	水中眼鏡 (すいちゅう めがね)	291	嫁 (よめ)	332	まぬけ者 (まぬけもの)	365	外国人 (がいこくじん ※中国人)		
255	銚 (もり)	292	婿 (むこ)	333	けちんぼう	366	皆々様 (みなみなさま)		
256	釣竿 (つりざお)	293	いとこ	334	陰湿・根暗 (いんしつ・ ねくら)		(3) 動物 (アイキムシ)		
257	釣糸 (つりいと)	294	いとこの子供 (いとこ のこども)	335	開けっ広げな人 (あ けっひろげなひと)		①腔腸動物		
258	筌 (うけ※水中で使う 捕獲罟)	295	あなた	336	厄介者 (やっかいもの)		367	くらげ	
259	錨 (いかり)	296	あなた方 (あなたがた)	337	のろまな人			②環形動物	
	(2) 人間関係	297	貴殿 (きでん)	338	だらだらしている人 腕白者・悪賢い人			368	みみず
260	人 (ひと)	298	貴殿方 (きでんがた)	339	(わんぱくもの・わる がしいひと)				③軟体動物
261	人間 (にんげん)	299	年上 (としうえ)	340	耳汁が出ている人 (みみじるがでている ひと)			369	貝 (かい※総称)
262	主人 (しゅじん)	300	年下 (としした)	341	はなたれ			370	川にな (かわにな)
263	祖父 (そふ)	301	大人 (おとな)	342	物知り (ものしり) 無知な人・愚か者 (むちなひと・おろか もの)			371	田にし (たにし)
264	祖母 (そぼ)	302	若者 (わかもの)	343	ひねくれ者 (ひねくれ もの)			372	しゃこ貝 (※岩の上に 根付く種)
265	父 (ちち)	303	若者達 (わかものたち)	344	怒りっぽい人 (おこりっ ぽいひと)			373	ひめじゃこ (※岩の中 に根付く種)
266	母 (はは)	304	乙女 (おとめ)	345	うるさい人 (うるさい ひと)			374	寶貝の類 (たからがい のるい)
267	夫 (おっと)	305	乙女達 (おとめたち)	346	意地悪な人 (いじわる なひと)			375	ほら貝 (ほらがい)
268	妻 (つま)	306	私 (わたし)	347	まぬけな人			376	まがきがい
269	老人 (ろうじん)	307	私達 (わたしたち)	348	したたか者 (したたか もの)			377	かたつむり
270	子 (こ)	308	私達 (わたしたち)	349	いばりんぼう			378	あふりかまいまい
271	子供 (こども)	309	君達 (きみたち)					379	蛸 (たこ)
272	子供ら (こどもら)	310	親達 (おやたち)					380	甲いか (こういか)
273	赤子 (あかご)	311	親戚 (しんせき)						
274	兄 (あに)	312	妾 (めかけ)						
275	姉 (あね)	313	下男下女 (げなんげ じょ)						
276	弟妹 (ていまい)	314	おてんば						
277	兄姉 (けいし)	315	尻軽女 (しりがるおん な)						
		316	女郎 (じょうろう)						
		317	盗っ人 (ぬすつと)						
		318	秀才 (しゅうさい)						
		319	正直者 (しょうじきも の)						

④節足動物	⑥セキツイ動物	c. 爬虫類	(4). 植物
381 川えび (かわえび※総称)	a. 魚類	457 はぶ	①草木
382 大きな川えび (おおきなかわえび)	421 鰻 (うなぎ※総称)	458 あかまた	496 草 (くさ※総称)
383 ぬまえび (※体長3~4cm)	422 川鰻 (かわうなぎ)	459 ひめはぶ	497 あだん
384 伊勢海老 (いせえび)	423 田鰻 (たうなぎ)	460 琉球あおへび	498 にがな
385 しゃこ (※甲殻類)	424 うつぼ	461 からすへび	499 さとうきび
386 蟹 (かに※総称)	425 鮒 (ふな)	462 はい (※蛇類)	500 うこん
387 もくず蟹 (もくずがに)	426 めだか	463 やもり	501 月桃 (げっとう)
388 弁慶蟹 (べんけいかに)	427 小型のはぜ (こがたのはぜ)	464 きのぼりとかげ	502 からむし
389 のこぎりがさみ	428 大型のはぜ (おおがたのはぜ)	465 亀 (かめ※総称)	503 甘草 (かんそう)
390 やどかり	429 とびはぜ	d. 鳥類	504 くずうこん
391 しらみ	430 はりせんぼん	466 鳥 (とり※総称)	505 すすき
392 山だに (やまだに)	431 おにだるまおこぜ	467 あひる	506 はとむぎ
393 むかで	432 さぎ	468 さしば	507 つるそば
394 蟻 (あり)	433 かんもんはた	469 からす	508 せんなりほおずき
395 蟬 (せみ※総称)	434 あいご	470 このはずく	509 鳳仙花 (ほうせんか)
396 くろいわにいいい	435 かわはぎ	471 みみずく	510 おおぼこ
397 くまぜみ	436 かすみあじ	472 めじろ	511 生姜 (しょうが)
398 あぶらぜみ	437 めあじ	473 雀 (すずめ)	512 竹
399 とんぼ (※) 総称	438 あいごの稚魚 (あいごのちぎよ)	474 ひばり (※せつか)	513 つわぶき
400 おにやんま	439 くさびべら	475 鴨 (かも)	514 布袋竹 (ほていちく)
401 蛾 (が)	440 はまふえふき鯛 (はまふえふきだい)	476 ひよどり	515 ばなな
402 かまきり	441 いしもち	477 いそひよどり	516 りゅうぜつらん
403 いなご (※稲につくもの)	442 きびなご	478 水鶏 (くいな)	517 かや (※ちがや、すずき、すげ等の総称)
404 ばった	443 たちうお	479 おしどり	518 蔦 (つた)
405 黄金虫 (こがねむし)	444 いそふえふき鯛 (いそふえふきだい)	480 ごいさぎ	519 い草 (いぐさ)
406 茅蜂 (かやばち)	445 ぼら	481 鳩 (はと)	520 ひかげへご
407 雀蜂 (すずめばち)	446 てんぐはぎ	482 あかしょうびん	521 蓬 (よもぎ)
408 家蜂 (いえばち)	447 にぎだい	483 かわせみ	522 やえむぐら
409 土蜂 (つちばち)	448 すずめだい	e. 哺乳類	523 こしだ
410 銀蠅 (ぎんばえ)	屋久島鰯 (やくしまい)	484 牛 (うし)	②木本
411 牛蠅 (うしばえ)	449 わし※とうごろういわし)	485 馬 (うま)	524 樹木 (じゅもく※総称)
412 虻 (あぶ)	450 ふぐ	486 山羊 (やぎ)	525 あかぎ
413 蚊 (か)	451 いわし	487 犬 (いぬ)	526 ふかのき
414 毛虫 (けむし)	452 はた	488 猫 (ねこ)	527 あでく
415 かみきり虫 (※幼虫)	b. 両生類	489 兎 (うさぎ)	528 もっこく
416 かみきり虫	453 蛙 (かえる※総称)	490 猪 (いのしし)	529 いじゅ
417 ごきぶり	454 大型の蛙 (おおがたのかえる)	491 鼠 (ねずみ)	530 はまひさかき
⑤キョク皮動物	455 おたまじゃくし	492 じゃこう鼠 (じゃこうねずみ)	531 あこう
418 なまこ	456 しりけんいもり	493 こうもり	532 琉球もくせい (りゅうきゅうもくせい)
419 しらひげうに		494 鯨 (くじら)	533 がじまる
420 らっぼうに		495 海豚 (いるか)	534 ぎーま
			535 ぶっそうげ
			536 くちなし

537 蜜柑 (みかん)	10. 形容詞	609 気ぜわしい (きぜわしい)	637 近い (ちかい)
538 つるぐみ		気が小さい・内気である (きがちいさい・うちきである)	638 気だるい (けだるい)
539 琉球黒檀 (りゅうきゆうこくたん)	576 高い (たかい)	気の毒だ・かわいそう (きのどくだ・かわいそうだ)	気恥ずかしい・おもはゆい (きははずかしい・おのはゆい)
540 桑 (くわ)	577 寒い (さむい)	心寂しい・侘しい (こころさびしい・わびしい)	成長が早い・早熟である (せいちょうがはやい・そうじゆくである)
541 つつじ	578 美しい (うつくしい)	心優しい (こころやさしい)	640 強い (つよい)
542 杉 (すぎ)	579 薄い (うすい)	臭い (くさい)	642 手荒い (てあらい)
543 椎 (しい)	580 浅い (あさい)	口さびしい (くちさびしい)	643 はがゆい
544 やぶにつけい	581 暑い・熱い (あつい)	口やかましい (くちやかましい)	手早い・手を出すのが早い (てばやい・てをだすのがはやい)
545 梅檀 (せんだん)	582 厚い (あつい)	苦しい・つらい (くるしい・つらい)	644 早い (てばやい・てをだすのがはやい)
546 相思樹 (そうしじゆ)	583 赤い (あかい)	暗い (くらい)	645 遠い (とおい)
547 いぬまき	584 (味が) 薄い (うすい)	クジに弱い・クジ運がない (くじによわい・くじうんがない)	難しい・心苦しい・気まずい (むづかしい・こころぐるしい・きまずい)
548 車輪梅 (しゃりんばい)	585 甘い (あまい)	クジに強い・クジ運がよい (くじにつよい・くじうんがよい)	646 遠い (とおい)
549 たぶのき	586 荒(粗)い・荒っぽい (あらい・あらっぽい)	うら寂しい・もの寂しい (うらさびしい・ものさびしい)	647 たやすい
550 枇杷 (びわ)	①体調が悪い②面合臭い (①たいちょうがわるい②めんどうくさい)	小さい (ちいさい)	648 のろい・鈍い (のろい・にぶい)
551 さるなし	587 臭い (①たいちょうがわるい②めんどうくさい)	すばしっこい・すばやい (すばしっこい・すばやい)	649 長い (ながい)
552 福木 (ふくぎ)	588 少ない	脆い・壊れやすい (もろい・こわれやすい)	650 久しい・長々(ひさしい・ながなが)
553 うらじろ榎 (うらじろえのき)	589 息苦しい (いきぐるしい)	寂しい (さびしい)	651 涙脆い (なみだもろい)
554 沖縄夾竹桃 (おきなわきょうちくとう)	590 忙しい (いそがしい)	涼しい (すずしい)	①滑らかな②つかみどころがない (①なめらかな②つかみどころがない)
555 ごんずい	591 狭い (せまい)	酸っぱい (すっぱい)	652 かな②つかみどころがない
556 いたび	色美しい・色艶がいい (いろうつくしい・いろつやがいい)	塩辛い (しおからい)	653 憎い (にくい)
557 はくさんぼく	592 (いろうつくしい・いろつやがいい)	しぶとい・強情な (しぶとい・ごうじょうな)	654 遅い (おそい)
558 おおはまぼう	593 短い (みじかい)	渋い (しぶい)	655 眠い (ねむい)
559 ひめゆずりは	594 苦い (にがい)	白い (しろい)	656 暖かい (あたたかい)
560 珊瑚樹 (さんごじゆ)	595 痒い (かゆい)	すばらしい・みごと・しおらしい (すばらしい・みごと・しおらしい)	657 ぬるい
9. 動詞	596 かわいらしい	そそっかしい・粗忽な (そそっかしい・そそっかしい)	658 風が強い (かぜがつよい)
561 書く (かく)	597 愉快だ・嬉しい (ゆかいだ・うれしい)	賢い・まともである (かしこい・まともである)	659 濃い (こい)
562 行く (いく)	おかしい・滑稽である (おかしい・こっけいである)	体のだるい (たがだるい)	香ばしい・香りがよい (こうばしい・かおりがよい)
563 押す (おす)	598 (おかしい・こっけいである)		660 (こうばしい・かおりがよい)
564 越す (こす※超える)	未熟である・成長が遅い (みじゆくである・せいちょうがおそい)		うるさい・騒がしい (うるさい・さわがしい)
565 生む (うむ)	600 しっかりしている		661 (うるさい・さわがしい)
566 読む (よむ)	恐ろしい・もの凄 (おそろしい・ものすごい)		662 辛い (からい)
567 死ぬ (しぬ)	601 (おそろしい・ものすごい)		汚い・汚らわしい・下品だ (きたない・けがらわしい・げひんだ)
568 思う (おもう)	602 おとなしい・つきあいやすい		663 恥ずかしい (はずかしい)
569 買う (かう)	603 多い (おおい)		①むず痒い・くすぐったい②気性が荒く気難しい (①むずがゆい・くすぐったい②きしよ
570 成る (なる)	604 重い (おもい)		うがあらくきむずかしい)
571 降る (ふる)	605 脆い (もろい※食品が傷みやすい)		
572 有る (ある)	606 羨ましい (うらやましい)		
573 見る (みる)	607 青い (あおい)		
574 起きる (おきる)	608 愛しい (いとしい)		

666 煙たい (けむたい)	700 あれくらい・あれほど の (量、程度)	742 くつつけるさま	780 実直・正直であるさま
667 しやすい・つきあいやすい	701 あんなに	743 間もなく・やがて・た だいま	781 ひまひまに・時折・時々
668 低い (ひくい)	702 ああしたりこうしたり	744 ためしに	782 まれに・たまに
669 冷たい (つめたい)	703 あんなに長く	745 是非・必ず・きつと	783 新しく新しく
670 生臭い (なまぐさい)	704 どれ程・いくら	746 なんとか	784 残念なことに・惜しく も
671 珍しい (めずらしい)	705 沢山・一杯・たんと	747 どうしても・必ず	785 慎重に・丁寧に
672 広い (ひろい)	706 平素・普段	748 ずっと・そのまま	786 もしや・もしも・もし か
673 深い (ふかい)	707 片っ端から・残らず (ほんの) 少し・わず か	749 ずっとまっすぐ続くさ ま	787 ほっとするさま
674 欲しい (ほしい)	708	750 かつきり・ぴったり・ ちょうど	788 まもなく
675 固い (かたい)	709 うっかり	751 (容器の縁まで) 一杯	789 あやうく
676 細かい (こまかい)	710 思わず・つい	752 一つも・全く・さっぱ り	1 2. 連体詞
677 古い (ふるい)	711 思い切って・うんと	753 通して・絶えず・いつ も	790 惜しい・もったいない
678 早 (速) い (はやい)	712 さっさと・急いで・慌 てて	754 安心してゆったりする さま	791 あんなに大きな
679 大きい (おおきい)	713 こんなに・このように	755 うつらうつらまどろむ さま	792 あの
680 おいしい	714 重く引き摺るさま	756 なるほど・そうだ	793 あのような
681 丸い (まるい)	715 がちがちと	757 もう・もはや	794 あんな
682 見にくい (みにくい)	716 がちやがちやと	758 各自・めいめい	795 どんな・いかなる
683 久しい・久しぶりであ る (ひさしい・ひさし ぶりである)	717 がんがんと	759 もっと・もう少し	796 去る
684 新しい (あたらしい)	718 ぜいぜいと	760 なるべく・なるだけ	797 変な・風変わりな
685 見やすい (みやすい)	719 ぐったりと・疲れて元 気がない様	761 どんなに	798 いろんな・様々の
686 まぶしい	720 ちょこちょこと	762 動作ののろいさま	799 そのぐらいの大きさ の・そんなにも大きな
687 困難である・気むずか しい (こんなんである・ きむずかしい)	721 こまごまと	763 ずっと・遙か	800 こんなに大きな
688 品質が悪い (ひんしつがわるい)	722 さっさと・素早く	764 早く	801 その
689 ひもじい	723 ぐるぐる・きよろきよ ろ	765 ぷかぷかと・ぱくぱく と	802 このように
690 柔らかい (やわらかい)	724 一杯・たくさん	766 (色やお茶の) 濃いさ ま・濃く	803 こんな
691 よろしい・よい	725 ぐらぐらと	767 びしょびしょに	804 果報な・幸運な
692 緩い (ゆるい)	726 ぐんぐん	768 ぱちぱちと	805 とんでもない・意外な
693 とてもうるさい・とて もやかましい	727 きれいさっぱりと	769 かつかと (※例:かっ かと盛んに燃える)	806 変わった・奇妙な
694 とても汚らしい・と ても汚い (とてもけが らわしい・とてもきた ない)	728 大変・とても	770 貧乏して困っているさ ま	807 どのぐらいの
695 とても恐ろしい・とて も怖い (とてもおそろ しい・とてもこわい)	729 こっそりと・ひそかに	771 非常に・大変・とって も	808 いかなる・どのような
696 弱い (よわい)	730 強いて・無理に	772 早く・早々と	809 どういう
697 悪い (わるい)	731 精一杯・四苦八苦	773 ぶんぶんと	810 いい
1 1. 副詞	732 しっかりと・間違いな く・確かに	774 さっさと・慌てて・い そいそ	811 風変わりな・一風変 わった
698 あれだけ・あんなに	733 次第に・段々と	775 おいしそうに	812 同じ
699 急に・突然・ふいに・ いきなり	734 どんなに・どのように	776 そっくりそのまま	1 3. 接続詞
	735 心から・真から	777 しわくちゃ	813 そうしなければ
	736 次第次第に	778 一緒に	814 それから・そうして
	737 新たに	779 真っ直ぐ	815 そうだから・それで
	738 粗末に・粗略に		816 それから・そして
	739 早々に・急いで・さっ さと		817 そうだから
	740 くつつき合うさま		
	741 ますます・どんどん		

- 818 ~だったか~だったか
819 ~か~か・~でも~でも (どちらか)
820 しながら
821 が・だが・しかし
822 ~のたびに (たびにごとに)
823 ~まで
824 もしかして
14. 感動詞
- 825 ああ (驚いた時などに思わず出る感動詞)
826 ああ、ああ (がっかりしたときなど)
827 あっ、あれ? (不意を突かれたときなど)
828 あれまあ (憐み)
829 あっ、痛い (痛い時、とっさの衝撃)
830 ああ、しまった (後悔や慙愧、相手を責める時も使う)
831 あの・あのね
832 ああ (納得、共感)
833 ほら (遠いものを指して)
834 ねえ (呼びかけ)
835 ああどうしよう (非常に困った時などに言う)
836 うん、はい (目下の者への返事、反抗心から出るぶっきらぼうな返事)
837 あな尊と (神前等で祈りをささげる時の唱え文句)
838 ほら (近いものを指して)
839 いやだ (強い拒否)
840 おい
841 ああそうか (納得、共感)
842 そうだ (同意)
843 だから
844 ~だよ
845 おいこら
846 そうなんだ (よね)
847 ああそうだ
- 848 ~かもしれない (予測、仮定)
849 ~でしょう (確認、念押し)
850 はい (敬語)
851 困ったことになった (困惑、憂い)
852 したり・あつぱれ (快哉)
853 どれ (不明または不特定の事を指す)
854 さあ (促し)
855 しまった (失敗した時などに思わず発する)
856 しまった (前項の強調)、それみる (原因転嫁)
857 さあ (さあさあ)
858 いやそうではなく・と
859 もう・もはや
860 そうだ・よし (承認、激励)
861 ああ (驚嘆、歓喜)
862 ああ (悲嘆、後悔)
863 なんで・どうして
864 いやもう~
865 はあもう~
866 いや (そうではなく)
867 さあ・それ
868 ああ (驚嘆、悲嘆)
869 いいえ
870 もしもし (訪問するときの呼びかけ)
871 いや (断固とした否定、拒否)
872 ほう (同情)
873 はい・はい (返事)
874 いい気味だ、ざまあみる
875 どれ・さあ (催促)
876 そうだ
15. 助詞
- 877 ~か (のか) (不確か)
878 ~だけ・~ほど (程度)
879 ~ (こそ) だぞ
880 ~であったか・~だったか (曖昧)
881 ~だって・~でも (強調)
- 882 ~だって・~でも (選択)
883 ~へ (帰着点)
884 ~から (起点)
885 ~が (主語につく)
886 ~だが・~するも (逆説の確定条件)
887 ~まで (①帰着点)
888 ~まで (程度、強調)
889 ながら
890 ~したのか・~したのだろうか
891 ~で (手段)
892 ~で (理由)
893 が・けれども
894 ~で (場所)
895 ~に (時間)
896 ~だから (理由)
897 ~しても (逆説の仮定条件)
898 ~と~と (並置)
899 ~と~と (対比)
900 ~して・~で (原因、理由)
901 ~して・~で (原因)
902 ~の (所有を表す。文語では普通省略される)
903 ~の (所属を示す。省略される場合もある)
904 ~に (時間)
905 ~に (場所)
906 ~したら (仮定条件)
907 ~ばかり・~だけ (限定)
908 ~いっぱい (分量)
909 ~では (区別)
910 ~より (比較)
911 ~も~も (並置)
912 ~も (強調)
913 ~するな (禁止)
914 よ (余情)
915 ~だなー・~だねー (感動、驚嘆)
916 ~かしら・~かな (推量)
917 ~だぞ (呼びかけ)
918 ~か (誘い)
919 ~か (疑問)
920 ~しないと (軽い命令)
- 921 ~だよ
922 ~のか (軽い疑問)
923 ~なこと (感動、詠嘆)
924 ~だろう (推量)
925 ~よ (そのか) (唆す)
926 よ (悲嘆、強調)
927 ~よ (強調)

■表記のための仮名遣いの表

ア [a]	イ [i]	ウ [u]	エ [e]	オ [o]	ヤ [ja]	ユ [ju]		ワ [wa]	エ [we]
ア [ha]	イ [ji]	ウ [wu]	エ [je]	オ [wo]	ヤ [ja]	ユ [ju]	ヨ [jo]	ワ [wa]	エ [we]
カ [ka]	キ [ki]	ク [ku]	ケ [ke]	コ [ko]				クワ [kwa]	クエ [kwe]
ガ [ga]	ギ [gi]	グ [gu]	ゲ [ge]	ゴ [go]				グワ [gwa]	グエ [gwe]
サ [sa]	シ [si]	ス [su]	セ [se]	ソ [so]					
ザ [dza ~ za]	ジ [dzi ~ ʒi]	ズ [dzu ~ zu]	ゼ [dze ~ ze]	ゾ [dzo ~ zo]					
タ [ta]	ティ [ti]	トゥ [tu]	テ [te]	ト [to]					
ダ [da]	ディ [di]	ドゥ [du]	デ [de]	ド [do]					
ツア [tsa]	チ [tʃi]	ツ [tzu]	ツエ [tse]	ツオ [tzo]	チャ [tʃa]		チョ [tʃo]		
ナ [na]	ニ [ni]	ヌ [nu]	ネ [ne]	ノ [no]					
ハ [ha]	ヒ [hi ~ ci]		ヘ [he]	ホ [ho]	ヒャ [hja]				
ファ [fa]	フィ [fi]	フ [fu]	フェ [fe]	フォ [fo]					
パ [pa]	ピ [pi]	プ [pu]	ペ [pe]	ポ [po]	ピャ [pja]				
バ [ba]	ビ [bi]	ブ [bu]	ベ [be]	ボ [bo]	ビャ [bja]				
マ [ma]	ミ [mi]	ム [mu]	メ [me]	モ [mo]					
ラ [ra]	リ [ri]	ル [ru]	レ [re]	ロ [ro]					
促音 ッ		撥音 [mnŋ]	ン	長音 ー					

1、声門破裂音

語彙 字	1	2	3	4	5	6
	君	矢	魚	世	豚	輪
田嘉里	?ヤー	ヤー	?ユー	ユー	?ワー	ワー
謝名城	ヤー	ヤー	ユー	ユー	ワー	ワー
喜如嘉	?ヤー	ヤー	?ユー	ユー	?ワー	ワー
饒波	ヤー	ヤー	?ユー	ユー	ワー	ワー
大兼久	ヤー	ヤー	ユー	ユー	ワー	ワー
大宜味	ヤー	ヤー	ユー	ユー	ワー	ワー
根路銘	ヤー	ヤー	?ユー	ユー	?ワー	ワー
上原	ヤー	ヤー	ユー	ユー	ワー	ワー
塩屋	ヤー	ヤー	ユー	ユー	ワー	ワ
屋古	ヤー	ヤー	ユー	ユー	ワー	ワー
田港	?ヤー	ヤイ	?ユー	ユー	?ワー	ワー
押川	?ヤー	ヤー	?ユー	ユー	?ワー	ワ
大保	?ヤー	ヤー	?ユー	ユー	?ワー	ワー
白浜	?ヤー	ヤイ	?ユー	ユー	?ワー	ワー
宮城	?ヤー	ヤー	?ユ	ユー	?ワー	ワー
津波	?ヤー	ヤー	?ユー	ユー	?ワー	ワー

2、カ行子音のハ行化 カキクケコ→ハヒフヘホ

語彙 字	7	8	9	10	11	12
	垣	皮	紙	明かり	お碗 <small>おん</small>	草刈り
田嘉里	ハキ	ハー	ハビ	アハガイ	マハイ	クサハイ
謝名城	ハキ	ハー	ハビ	アハガイ	マハイ	クサハイ
喜如嘉	ハキ	ハー	ハビ	?アハガイ	マハイ	クサハイ
饒波	ハキ	ハー	ハビ	アハガイ	マカイ	クサハイ
大兼久	ハックイ	ハー	ハビ	アハガイ	マハイ	クサハイ
大宜味	ハキ	ハー	ハビ	アハガイ	マカイ	クサハイ
根路銘	ハキ	カー	ハビ	アハガイ	マカイ、 マハイ	クサハイ
上原	ハキ	ハー	ハビ	アカガイ	マハイ	クサハイ
塩屋	ハキ	ハー	ハビ	アハガイ	マハイ	クサハイ
屋古	ハキ	ハー	ハビ	アハガイ	マハイ	クサハイ
田港	ハクイ	ハー	ハビ	アカガイ	マハイ	クサハイ
押川	カキ	カー	カビ	アカガイ	マカイ	クサカイ
大保	カチ	カー	カビ	アカガイ	マカイ	クサカイ
白浜	ハギ	ハー	ハビ	アカガイ	マハイ、 マカイ	クサハイ
宮城	カチ	カー	カビ	アカガイ	マカイ	クサカイ
津波	ハキ	ハー	ハビ	アハガイ	マハイ	クサハイ

語彙 字	13 ゆか 床	14 木	15 毛	16 蜘蛛	17 蹴る	18 返し
田嘉里	ユハ	ヒー	ヒー	ヒブ	ヒーン	ヘーシ
謝名城	ユハ	ヒー	ヒー	ヒブ	ヒーン	ヘーシ
喜如嘉	ユハ	ヒー	ヒー	ヒブ	ヒーン	ヘーシ
饒波	ユハ	ヒー	ピギ	ヒブ	ヒーン	ヘーシ
大兼久	ユハ	ヒー	ヒー	ヒブ	ヒーユン	ヘーシ
大宜味	ユハ	ヒー	ヒー	クーバー	ヒーン	ヘーシ
根路銘	ユファ	ヒー	ヒー	クム	キーン	ケーシ
上原	ユカ	キー	ヒー	クーバー	キーン	ケーシ
塩屋	ユハ	ヒー	ヒー	クム、 クンム	ヒーン	ヘーシ
屋古	ユハ	ヒー	ヒー	クム	ヒーン	ヘーシ
田港	ユカ	ヒー	キー	クモ	キーン	ヘーシ
押川	ユカ	キー	キー	クモ	キーン	ケーシ
大保	ユカ	キー	キー	クーバー	キーン	ケーシ
白浜	ユハ	キー	キー、 ヒー	クム	ヒーン	ヘーシ
宮城	ユカ	キー	キー	クーバ	キーン	ケーシ
津波	ヤハ	キー	キー	クブ	キーン	ペーシ

	19	20	21	22	23	24
語彙 字	帰る	粉	声	腰	去年	米
田嘉里	ヘーン	フー	ファイ	フシ	フズ	フミ
謝名城	ヘーン	フー、ゲー	ファイ	フシ	フズ	フミ
喜如嘉	ヘーン	フー	ファイ	フシ	フズ	フミ
饒波	ヘーン	ゲー	ファイ	ガマク (腰回り)	フジュー	フミ
大兼久	ヘーユン	フー	ファイ	ガマク (腰回り)	フズー	フミ
大宜味	ヘーン	フー	ファイ	フシ	フズー	フミ
根路銘	ヘーン	フー	ファイ	フシ	フズー	フミ
上原	ケーン	クー	クイ	クシ	クズー	クミ
塩屋	ヘーン	フー	ファイ	フシ	フズー	フミ
屋古	ヘーン	フー	ファイ	フシ	フズー	フミ
田港	ケーン	フー	ファイ	フシ	フズー	フミ
押川	ケーン	クナ	クイ	クシ	クズ	クミ
大保	ケーン	クナ	クイ	クシ	クーズ	クミ
白浜	ヘーン、 ケーン	フー	ファイ	フシ	フズ、 フズー	フミ、クミ
宮城	ケーン	クー	クイ	クシ	クズ	クミ
津波	ヘーイー	フー	ファイ	フシ	フーズ	フミ

3、ハ行子音のファ行化・パ行化 ハヒフヘホ → ファフィフフェフォ・パピプ

語彙 字	25	26	27	28	29	30
	歯	𪛗	話	離れ (建物等)	羽	蜂
田嘉里	ファー	ファギ	ファナシー	ファナリ	ファニ	ファチ
謝名城	ファー	ファギ	ファナシー	ファナリ	ファニ	ファチ
喜如嘉	ファー	ファギ	ファナシ	ファナリ	ファニ	ファチ
饒波	ファー	ファギ	ファナシー	ファナリ	ファニ	ファチ
大兼久	ファー	ファギ	ファナシー、 バナシー	ファナリ	ファニ	ファチ
大宜味	ファー	ファギ	ファナシ	ファナリ	ファニ	ファチ
根路銘	ファー	ファギ	ファナシ	ファナリ	ファニ	ファチ
上原	ファー	ハギ	ハナシ	ハナリ	ファニ	ファチ
塩屋	ファー	ファギ	ファナシー	ファナリ	ファニ	ファチ
屋古	ハー	ハギ	ファナシー	ハナリ	ファニ	ファチ
田港	ハー	ファギ	ファナシ	ハナリ	ファニ	ファチ
押川	ハー	ハギ	ハナシ	ハナリ	ハニ	ハチャー
大保	ハー	ハギ	ハナシ	ハナリ	ハニ	ハチャー
白浜	ハー	ファギ	ハナシ	ハナリ	ハニ	ハチ
宮城	ハー	ハギ	ハナシ	ハナリ	ハニ	ハチ
津波	パー	パギ	パナシ	パナリ	パニ	パチ

語彙 字	31	32	33	34	35	36
	はげ 櫛 (木)	柱	払う	坂	はえ 蠅	骨
田嘉里	ファジ、 ハジ	ファヤ	ファレーン	サカ、 パー	フェー	フニ
謝名城	ファジ	ファヤ	ファレーン	バー、 パー	フェー	フニ
喜如嘉	ファジ	ファヤ	ファレーン	フィラ	フェー	フニ
饒波	ファジ	ファヤ	ファレーン	パー	フェー	フニ
大兼久	ファジ	ファヤ	ファレーン	パー	フェー	フニ
大宜味	ファジ	ファヤ	ファレーン	パー	フェー	フニ
根路銘	ハジ	ファヤ	ファレーン	パー	フェー	フニ
上原	ファジ	ファヤ	ファレーン	サカ	フェー	フニ
塩屋	ファジ	ファヤ	ファレーン	パー (上り)、 フィラ (下り)	フェー	フニ
屋古	ハジ	ファヤ	ファレーン	パー	フェー	フニ
田港	ファジ	ファヤ	ファレーン	フィラ	フェー	フニ
押川	ハジギー	ハーヤ	ハレーン	ヒラ	フェー	フニ
大保	ハジ	ハーヤ	ハレーン	ヒラ	へー	フニ
白浜	ハジ	ファヤ、 ファヤー	ファレーン	ヒラ	フェー	フニ
宮城	ハジ	ハーヤ	ハレーン	ヒラ	へー	フニ
津波	パジギ	パヤ	パレーン	ピヤー	ペー	プニ

語彙 字	37 箱	38 日	39 ひげ 髭	40 へ 尻	41 ひ せ 干瀬	42 ひたい 額
田嘉里	パフ	ピー	ピギ	ピー	ピシ	ピッチャイ
謝名城	パフ	ピー	ピギ	ピー	ヒシ、 ピシ	ピッチャイ
喜如嘉	パフ	ピー	ピギ	ピー	ピシ	ピツツアイ
饒波	パフ	ピー	ピギ	ピー	ピシ	ピッチャイ、 ヒチェー
大兼久	パフ	ピー	ピギ	ピー	ピシ	ヒッチャイ
大宜味	パフ	ピー	ピギ	ピー	ピシ	ピツツアイ
根路銘	パフ	ピー	ピギ	ピー	ピシ	ピッチャイ
上原	ハク	ヒー	ピギ	ピー	ピシ	ピッチャイ
塩屋	パフ	ピー	ピギ	ピー	ピシ	ピッチャイ
屋古	パフ	ヒー、 ピー	ピギ	ヒー、 ピー	ピシ	ピッチャイ
田港	ハク	ピー	ヒギ	ピー	ピシ	ピツツアイ、 ピッチャイ
押川	ハク	ヒー	ヒギ	ヒー		ヒチャイ
大保	ハク	ヒー	ヒジ	ヒー	ヒシ	ヒツタイ
白浜	パフ、 ハク	ピー、 ヒ	ピギ、 ヒギ	ピー、 ヒー	ピシ、 ヒシ	ピッチャイ
宮城	ハク	ヒ	ヒグ	ヒー	ヒシ	ヒチャイ
津波	パフ	ピー	ピギ	ピー	ピシ	メービチャ

11、副詞

	698	699
語彙	あれだけ・あんなに	急に・突然・不意に・いきなり
例文	あれほど 暴れた者は いないよ	いきなり 道に 飛び出して 来た
田嘉里	アングトゥ	ウビジ
	<u>アングトゥ</u> アバリタルムンヤ ウラン	<u>ウビジ</u> トウンジティ チャン (いきなり飛び出して来た)
謝名城	アッサー	アッタニ
	<u>アッサー</u> アマチャシヤ ウランサー	<u>アッタニ</u> ミチカイ トウンジティ チャン
喜如嘉	?アッサー	?アッタニ
	? <u>アッサー</u> ?アマチャセー?ウランサ	? <u>アッタニ</u> ミチカイ トウンジティ チャン
饒波	ウッサー	アッタニ
	ウッサーマリ アマスシヤ ウラン	<u>アッタニ</u> ミチーチ トウンジティ チィ
大兼久	アッサー	アッタニ
	<u>アッサー</u> アマチャシヤ ウランサ	<u>アッタニ</u> ミチカイ トウビイジトウン (いきなり道に飛び出している)
大宜味	アッサー	アッタニ
	<u>アッサー</u> アマチャシヤ ウランサ	<u>アッタニ</u> ミチーチ トウンジティ チャン
根路銘	アッサー	アッタニ
	<u>アッサー</u> アマチャルチュヤ ウランサ	<u>アッタニ</u> ミチンカイ トウンジティ チャン
上原	アングトゥ	ウビジ、アッタニ
	<u>アングトゥ</u> アマサー ウランドー (あんなに暴れん坊はいないよ)	<u>ウビジ</u> ミチニ トウンジティ (いきなり道に飛び出して)
塩屋	アッサー	ウビジ、アッタニ
	<u>アッサー</u> アマチャシヤ ウランサ	<u>アッタニ</u> ミチーチ トウンジティ チャン
屋古	アッサー	ウビジ
	<u>アッサー</u> アバリタシヤ ウランドー	<u>ウビジ</u> ミチーチ トウビイジティ チャン
田港	アンスカー、アンチマリ	アッタニ、アッタミカチ
	<u>アンスカー</u> アマチャシヤ ウランサ	<u>アッタミカチ</u> ミチーチ イジティ チャン
押川	アッサー	アッタニ
	<u>アッサー</u> アバリタシヤ ウランドー	<u>アッタニ</u> ミチカイ トウビダシティ チャーン
大保	アッサー	アッタニ
	<u>アッサー</u> アマチャシヤ ウラン	<u>アッタニ</u> ミチカイ トウンジティ チャン
白浜	アッサー	ウビジ、アッタニ
	<u>アッサー</u> アマチャシヤ ウランサ	<u>ウビジ</u> ミチーチ トウンジティ チャン
宮城		
津波	アングトゥ	ウビジ、ウビジナー
	<u>アングトゥ</u> アバリテーヌムンヤ ウラン	<u>ウビジ</u> ミチーチ トウンジティ チャン

語彙	あれくらい・あれほどの (量、程度)	あんなに
例文	あれ程は できない	どうして あんなに 怒っているのか
田嘉里	アングトゥ	アンシ
	アングトゥヤ ナランサ (あんにはできない)	ヌーディチ アンシ クサミチョーガ
謝名城	アンサク	アンシ
	アンサクヤ ナラン	ヌーディチ アンシ クサミクガ
喜如嘉	?アンサク	?アンシ
	?アンサクヤ ナラン	ヌーディチ ?アンシ クサミクガ
饒波	ウッサーマリ	アンシ
	ウッサーマリヤ ナラン	ヌーリチ アンシ クサミクガシ
大兼久	アンサク、ウッサーマリ	アンシ
	アンサクヤ ナラン	ヌーディチ アンシ クサミトウイガ
大宜味	アリンサク	アンシ
	アリンサク ナラン	ヌーディチ アンシ クサミチョウガ
根路銘	アンサク	アンシ
	アンサクヤ ナラン	ヌーディチ アンシ クサミチョーガ
上原	ウッサーマリ	アンシ、アンシナー
	ウッサーマリ ナラン	ヌーリチ アンシ クサミクガ
塩屋	アンサク、アッサー	アンシ
	アッサーヤ ナラン	ヌーディチ アンシ クサミクガ
屋古	アッサー	アッサー
	アッサーヤ ナラン	ヌーディチ アッサー クサミクガ
田港	アンスカナー	アンシ
	アンスカナーヤ ナランドー	ヌーンリチ アンシ ワジトウイガ
押川	アッサーナー	アンシ
	アッサーナーヤ ナラン	ヌーガ アンシ クサミチョーガー
大保	アヌサク	アンシナー
	アヌサクヤ ナラン	ヌーリチ アンシナー ワジトーガ
白浜	アッサー	アンシ
	アッサーヤ ナラン	ヌーリチ アンシ クサミクガ
宮城		
津波	アナアタイ、アングトゥ	アンチ
	アナアタイヤ ナラン	ヌーディチ アンチ クサミクガ

語彙	ああしたりこうしたり	あんなに長く
例文	ああしたりこうしたり するうちに 終わった	あんなに長い間 いたのか
田嘉里	アンシカンシ	ウンナゲー、アンナゲー
	<u>アンシカンシ</u> スルウチニ ウワタン	<u>ウンナゲー</u> ウイタンバーナー
謝名城	アンシハンシ	ウンナゲー
	<u>アンシハンシ</u> スルウチニ ウワタン	<u>ウンナゲー</u> ウイタンバー
喜如嘉	?アンナイカンナイ	?アンナゲー
	? <u>アンナイカンナイ</u> スルウチニ ?ウワタン	? <u>アンナゲー</u> ?ウイタルバーナー
饒波	アリサイフリサイ	ウンナゲー
	<u>アリサイフリサイ</u> サートウ ウワタン	<u>ウンナゲー</u> ウイタンバー
大兼久	アーサイクーサイ、アンシカンシ、アンナイカンナイ	アンナゲー
	<u>アンナイカンナイ</u> スルウチニ ウワタン	<u>アンナゲー</u> ウイタルバーナー
大宜味	アンナカイカンナカイ	アンナゲー
	<u>アンナイカンナイ</u> スルウチニ ウワタン	<u>アンナゲー</u> ウイタンバーナー
根路銘	アンナイカンナイ	ウンナゲー
	<u>アンナイカンナイ</u> スルウチニ ウワタン	<u>ウンナゲー</u> ウイタンバー
上原	アリサイフリサイ	ウンナゲー
	<u>アリサイフリサイ</u> シーカイ ウワタン	<u>ウンナゲー</u> ウイタルバーナー
塩屋	アンナイカンナイ、アリサイフリサイ	アンナゲー、ウンナゲー
	<u>アンナイカンナイ</u> スール(ヌ) ウチネー ウワタン	<u>アンナゲー</u> ウイタルバーナー
屋古	アーサイーウーサイ、アリサイウリサイ	アンシナガレー
	<u>アーサイウーサイ</u> スルウチニ ウワタン	<u>アンシナガレー</u> ウイタルバーナー
田港	アンナイカンナイ	ウンナゲー
	<u>アンナイカンナイ</u> スルウチニ ウワタン	<u>ウンナゲー</u> ウイタルバーナー
押川	アーシチャイクーシチャイ	アンシナガーク
		<u>アンシナガーク</u> ウイタルバー
大保	アリサイクリサイ	ウンナゲー
	<u>アリサイクリサイ</u> ソーヌウチニ ウワタン	<u>ウンナゲー</u> ウイタル バーナー
白浜	アンナイハンナイ	アンナゲー
	<u>アンナイハンナイ</u> スールウチネー ウワタン	<u>アンナゲー</u> ウイタルバーナー
宮城		
津波	ハンチヒツチャイアンチヒツチャイ、 アンチャイハンチャイ	アングトウナガレー、ウンナゲー
	<u>アンチャイハンチャイ</u> スンターナー ウワタン	<u>ウンナゲー</u> ウイターサー

語彙	どれ程・いくら	沢山・一杯・たんと
例文	これ <u>いくら</u> するか	<u>沢山</u> あるんだね
田嘉里	イキッサ	イキサーン
	ウリ <u>イキッサ</u> スガ	<u>イキサーン</u> アイサー
謝名城	イキサー	イキサーン
	ウレー <u>イキサー</u> スガ	<u>イキサーン</u> アイサー
喜如嘉	?イキサー	?イキサーン
	?ウリ ? <u>イキサー</u> スガ	? <u>イキサーン</u> ?アイサヤ
饒波	イキサー	イキサン
	ウリヤ <u>イキサー</u> スガ	<u>イキサン</u> アイサヤー
大兼久	イキサー、チャッサー	イキサン
	ウリ <u>チャッサー</u> スガ	<u>イキサン</u> アイサヤー
大宜味	イキサー	イキサン
	ウリ <u>イキサー</u> スガ	<u>イキサン</u> アイサー
根路銘	イキサー	イキサン
	ウリ <u>イキサー</u> スガ	<u>イキサン</u> アイサヤー
上原	イキサー	イキサン
	ウリヤ <u>イキサー</u> スガ	<u>イキサン</u> アインヤー
塩屋	イキサー	イキサン、ウフォーク、ウフク
	ウリ <u>イキサー</u> (ス) ガ	<u>イキサン</u> アイサヤー
屋古	イキサー	イキサン
	ウリ <u>イキサー</u> ガ	<u>イキサン</u> アンヤー
田港	イキサー	イキサーン
	ウリ <u>イキサー</u> スガ	<u>イキサーン</u> アイサヤ
押川	チャッサー	イキサン
	ウリ <u>チャッサー</u> サビーガ (これはおいくらですか)	<u>イキサン</u> アイサヤー
大保	チャッサー	チャッサン
	ウリヤ <u>チャッサー</u> スガ	<u>チャッサン</u> アイサヤー
白浜	イキサー	イキサン
	ウリ <u>イキサー</u> スガ	<u>イキサン</u> アイサヤー
宮城		
津波	イキサー	イキサン、ウフーク
	フリ <u>イキサー</u> スガヤー	<u>イキサン</u> アイセー

語彙	平素・普段	片っ端から・残らず
例文	いつもは あんな風では ないけどね	片っ端から 取ってきた
田嘉里	イッソウ	イッソウナーカ
	<u>イッソウ</u> ヤ アンセー アランシガヤー	<u>イッソウナーカ</u> トウッティチャン
謝名城	イッソー	イッソーナーカー
	<u>イッソー</u> ヤ アンシヤ アランシガヤー	<u>イッソーナーカー</u> トウッティチャン
喜如嘉	?イッソー	?イッソーナーディ
	? <u>イッソー</u> ヤ ?アンヤ ?アランシガヤー	? <u>イッソーナーディ</u> トウッティチャン
饒波	イチン	イッソナーリー
	<u>イチン</u> アンシヤ アランシガ	<u>イッソナーリー</u> トウッティチャン
大兼久	イチン、イッソー	イッソーナーリー
	<u>イッソー</u> ヤ アンシ アランシガヤー	<u>イッソーナーリー</u> トウッティチャン
大宜味	イッソー	イッソーナーディ
	<u>イッソー</u> ヤ アングトゥ アランシガヤー	<u>イッソーナーディ</u> トウッティチャン
根路銘	イッソー	イッソーナーリー、ヌクラジ
	<u>イッソー</u> ヤ アングトゥ アランシガヤー	<u>イッソーナーリー</u> トウッティチャン
上原	ヒージ、マルヒージ	イッソーラーシー
	<u>ヒージ</u> ヤ アンシ アランシガヤー	<u>イッソーラーシー</u> ムルトウッティチャン
塩屋	ヒージー、イッソー	イッソーナーリー、イッソーナーギー
	<u>ヒージー</u> ヤ アンヤ アランシガヤー	<u>イッソーナーリー</u> トウッティチャン
屋古	チャーマ、イッソー、フィージー	イッソーナー
	<u>チャーマ</u> アンシヤ アランシガヤー	<u>イッソーナー</u> トウッティチャン
田港	イッソー	イッソーナーディ
	<u>イッソー</u> ヤ アンシ アランシガヤー	<u>イッソーナーディ</u> トウッティチャン
押川	イチン	イッソーナーリー
	<u>イチン</u> アングトゥヤ アランシガヤー	<u>イッソナーリー</u> トウッティチャン
大保	ヒージー	イッソーカラ
	<u>ヒージー</u> ヤ アンシヤ アランシガ	<u>イッソーカラ</u> トウッティチャン
白浜	ヒージー	イッソーナーリー
	<u>ヒージー</u> ヤ アンシ アランシガヤー	<u>イッソーナーリー</u> トウッティチャン
宮城		
津波	イチン、マルイーピージー	シキシキ、イッソーナーギイ
	<u>イチン</u> アンチャ アランシガヤー	<u>シキシキ</u> トウッティチャン